

第3章 事業実施想定区域及びその周辺の概況

計画段階配慮事項の検討を行うために、事業実施想定区域及びその周辺における自然的状況及び社会的状況について、事業特性を踏まえ文献及びその他の資料により把握した。必要と考えられる検討範囲は、図3.1.1に示す範囲を基本として、必要に応じて適宜拡大することとした。

3.1 自然環境の把握

3.1.1 気候及び気象

1) 気候の状況

事業実施想定区域である調査対象区域は、内陸型に属しており、山形県内陸部の気候は、夏暑く冬に豪雪となる盆地気候で、年間の寒暖差が大きい。

2) 気象状況

(1) 地域気象観測所

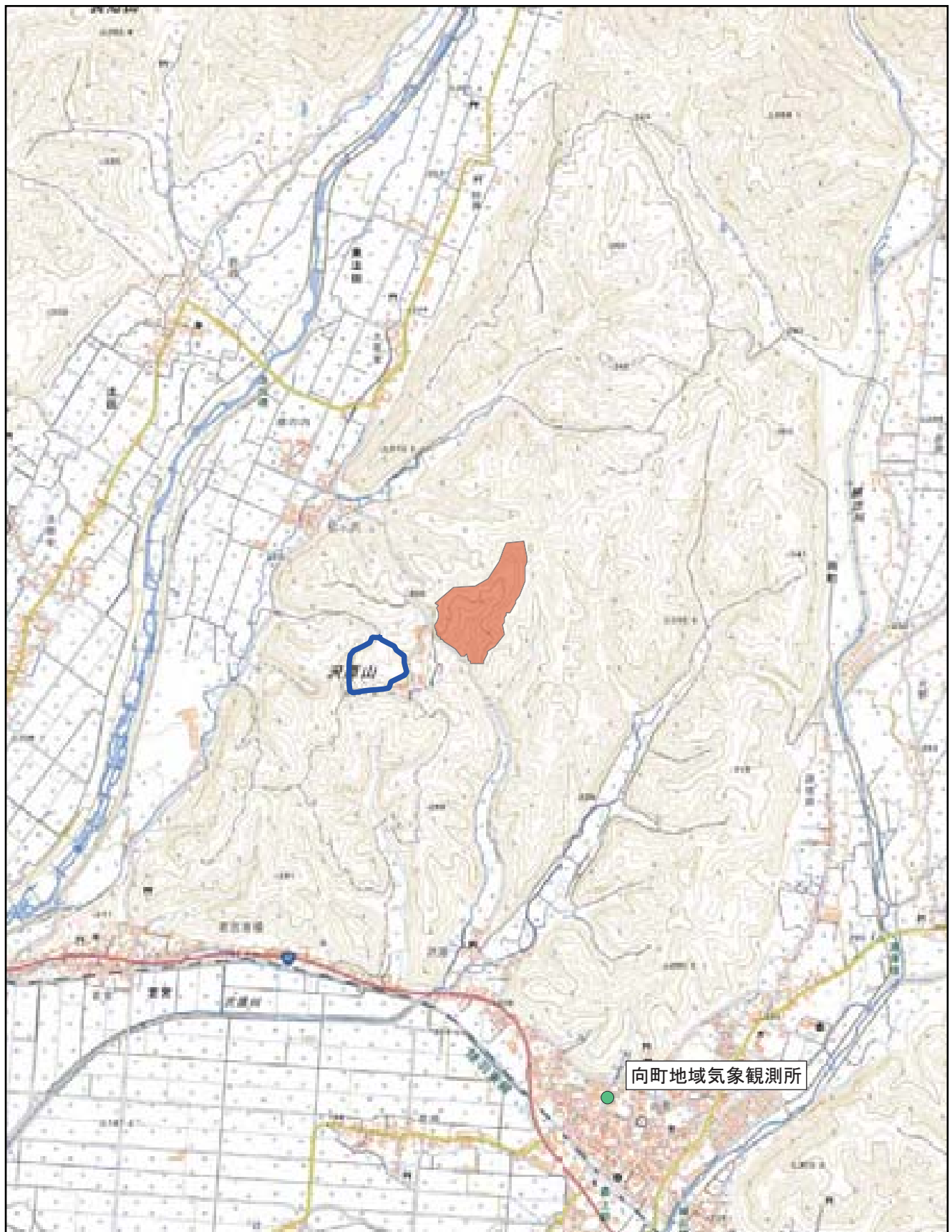
事業実施想定区域の近傍に設置されている向町地域気象観測所の概要を表3.1.1に位置を図3.1.1に示す。

表 3.1.1 向町地域気象観測所の概要

観測所名	所在地	緯度、経度	海面上の高さ	観測項目
向町	山形県最上郡 最上町向町	緯度38° 45.5' 経度140° 31.0'	212m (風速計9.9m) (温度計3.5m)	降水量、気温、 風向、風速、相対湿度、 日照時間、雪

出典：「地域気象観測所一覧」（令和7年3月13日現在 気象庁HP）

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/amedas/ame_master.pdf



凡例

- : 事業実施想定区域
- : 既存処分場埋立区域
- : 地域気象観測所 (向町)

縮尺 : 1/25,000
 0m 250m 500m 750m 1000m

図 3.1.1 地域気象観測所位置図

(2) 気象の状況

向町地域気象観測所における主要な気象要素の平年値(1991～2020年の30年間の観測値)を表3.1.2に示す。平年値の年平均気温は、10.3℃、年間降水量は1851.8mmであった。令和7年の月別気象概況を表3.1.3に、平年値及び令和7年における平均気温、降水量を図3.1.2に示す。令和7年の平均気温は11.7℃、年間降水量は1704mmであった。

表 3.1.2 主要な気象要素の平年値(30年間平均値)(向町地域気象観測所)

項目	年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平均気温(℃)	10.3	-1.3	-1.0	1.9	7.7	13.9	18.3	22.1	23.2	19.1	12.6	6.3	1.1
日最高気温(℃)	15.0	1.6	2.6	6.3	13.6	19.8	23.5	26.8	28.3	24.1	18.0	11.1	4.4
日最低気温(℃)	6.3	-4.3	-4.4	-2.1	2.2	8.5	13.9	18.4	19.3	15.1	8.1	2.1	-1.8
平均風速(m/s)	///	2.2	2.3	2.3	2.2	2.0	1.6	1.4	1.4	1.4	1.4	1.7	2.0
日照時間(時間)	1402.5	47.1	63.5	110.5	160.5	186.9	154.9	130.0	161.0	124.4	122.5	90.5	48.5
降水量(mm)	1851.8	168.9	116.6	114.5	104.1	119.2	137.2	233.4	197.6	158.3	148.2	167.2	188.2

※：平年値は1991～2020年の30年間の観測地の平均をもとに算出している。

出典：「気象庁 各種データ・資料」 (<https://www.data.hma.go.jp/stats/etrn/index.php>)

表 3.1.3 令和7年度の月別気象概況(向町地域気象観測所)

月	降水量 (mm)				気温 (℃)					風向・風速 (m/s)					日照 時間 (h)
	合計	最大			平均			最高	最低	平均 風速	最大風速		最大瞬間風速		
		日	1時間	10分間	日平均	日最高	日最低				風速	風向	風速	風向	
1月	159.0	27.5	5.5	1.5	-0.8	2.7	-3.8	5.4	-8.6	1.7	10.6	西北西	20.9	西北西	50.6
2月	148.5	21.5	4.5	1.5	-1.0	2.3	-4.3	10.3	-8.8	2.9	12.0	西北西	21.5	西	55.9
3月	47.5	10.0	2.5	1.0	3.2	8.0	-1.1	15.4	-4.3	2.5	10.6	西北西	21.5	西	104.0
4月	129.0	22.5	6.0	2.0	9.3	14.1	5.1	23.0	-3.3	2.3	9.6	西	20.0	西	84.0
5月	181.5	49.5	11.5	5.5	14.4	19.9	9.3	28.4	0.5	2.2	9.1	西	18.0	西	162.6
6月	67.5	15.0	14.0	9.5	21.1	26.8	16.0	33.6	9.0	1.9	7.4	西	15.2	西	189.9
7月	8.5	4.0	3.0	2.0	25.9	31.8	21.2	36.9	17.6	1.8	6.6	東	11.2	東	221.2
8月	135.5	20.5	18.5	14.0	25.4	30.9	21.3	36.0	16.2	1.6	6.4	西北西	13.9	北西	187.9
9月	290.0	59.0	24.5	9.0	20.9	26.4	16.3	34.2	10.0	1.5	5.9	西北西	13.2	西	144.5
10月	216.5	59.0	10.0	4.5	13.4	18.5	9.3	26.8	-0.4	1.4	6.7	西	14.2	西	124.1
11月	129.5	32.0	9.0	2.5	6.6	11.8	2.4	18.5	-2.4	1.9	9.9	西北西	19.6	西北西	109.8
12月	191.0	18.0	7.0	1.5	1.8	5.5	-1.5	13.9	-7.4	1.9	10.0	西	24.2	西	53.4
年	1704.0	59.0	24.5	14.0	11.7	16.6	7.5	36.9	-8.8	2.0	8.7	西北西	24.2	西	1487.9

出典：「気象庁 各種データ・資料」 (<https://www.data.hma.go.jp/stats/etrn/index.php>)

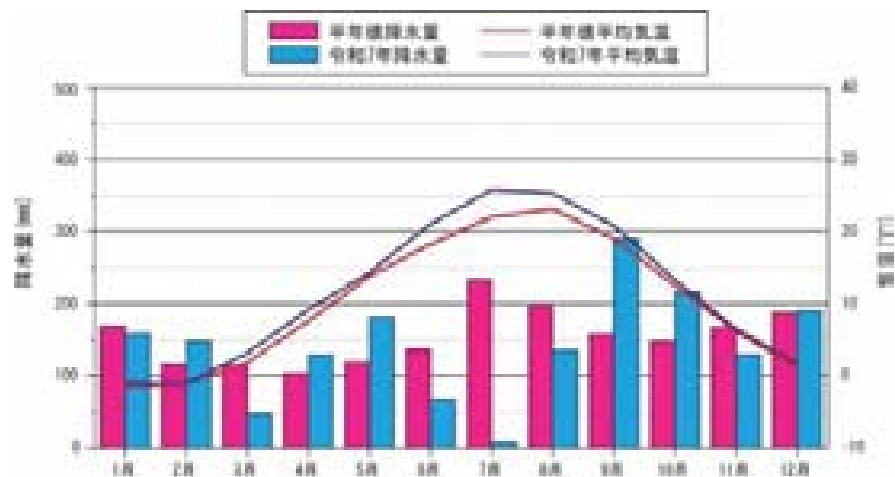


図 3.1.2 平年値及び令和 7 年の平均気温、降水量(向町地域気象観測所)

出典：「気象庁 各種データ・資料」(<http://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/index.php>)

3.1.2 水文及び水象

1) 事業実施想定区域及びその周辺の河川の分布状況

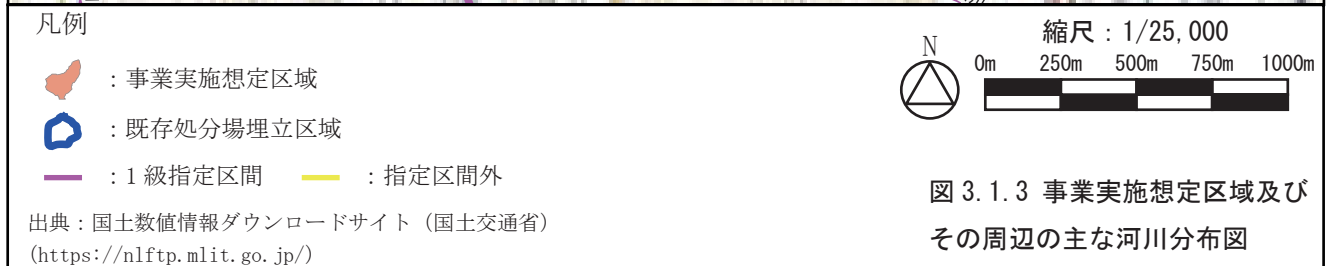
事業実施想定区域及びその周辺の主な河川を図 3.1.3 に示す。

2) 河川の流量

「国土交通省水文水質データベース」によると、2020 年～2024 年における約 18km 下流の最上小国川長者原観測所の最大流量は、 $1630.61\text{m}^3/\text{s}$ から $249.51\text{m}^3/\text{s}$ であり、平均流量は $30.11\text{m}^3/\text{s}$ から $25.84\text{m}^3/\text{s}$ であった。

3) 洪水の履歴等

事業実施想定区域及びその周辺の洪水の履歴について、直近では、令和 6 年 7 月の大雨により最上小国川が氾濫し土砂崩れが多数発生した。



3-6

3.1.3 大気質及び水質等

1) 大気質の状況

(1) 一般環境大気測定局の設置状況

山形県内における大気質について、令和7年度は一般環境大気局10局及び自動車排出ガス測定局1局の計11局で大気汚染防止法に基づく常時監視を実施している。

事業実施想定区域の近傍の測定局は、事業実施想定区域より西側約18km離れた新庄市に設置されている「新庄下田局」である。新庄下田局の概要及び測定項目を表3.1.5に示し、位置を図3.1.4に示す。

表 3.1.5 一般環境大気測定局の所在地と測定項目

測定局名	二酸化硫黄 (SO ₂)	二酸化窒素 (NO ₂)	浮遊粒子状 物質 (SPM)	光化学 オキシダント (Ox)	微小粒子状 物質 (PM2.5)
新庄下田	○	○	○	○	○

※：表中の「○」は、測定が行われていることを示す。

出典：「環境大気常時監視測定結果について」（山形県HP）

(https://www.pref.yamagata.jp/ou/kankyoenergy/053001/joho/kankyo_taiki.html)

(2) 大気環境測定結果

令和3年度から令和7年度における新庄下田の環境大気測定結果を表3.1.6に示す。

表 3.1.6 新庄下田の環境大気測定結果

測定項目	項目	単位	測定年度の測定結果				
			R3	R4	R5	R6	R7
二酸化硫黄 (SO ₂)	1時間値の1日平均値 の年間2%除外値	ppm	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001
二酸化窒素 (NO ₂)	1時間値の1日平均値 の年間98%値	ppm	0.016	0.013	0.009	0.010	0.010
浮遊粒子状物質 (SPM)	1時間値の1日平均値 の年間2%除外値	mg/m ³	0.02	0.021	0.024	0.022	0.026
光化学オキシダント (Ox) ※昼間(5時～20時の 15時間)の1時間 の最高値	昼間の1時間値が0.06ppmを 超えた日数と時間数	超過 日数	24	35	21	34	41
		時間数	116	177	131	217	233
	昼間の1時間値の最高値	ppm	0.083	0.090	0.095	0.084	0.084
微小粒子状物質 (PM2.5)	1年平均値	μg/m ³	6.7	7.6	7.8	6.6	7.2
	1時間値の1日平均値 の年間98%値	μg/m ³	15.7	17.4	17.5	17.2	20.3

出典：「山形県の大気・水環境等の状況」（山形県HP）

(<https://www500.pref.yamagata.jp/documents/53097/r7kankyousyousai.pdf>)

(3) 環境基準の達成状況

令和3年度から令和7年度における環境基準の達成状況を表3.1.7に示す。一般環境大気局(新庄下田)の測定結果について、二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質及び微小粒子状物質は、環境基準を達成しているが、光化学オキシダントは、環境基準を達成していない。

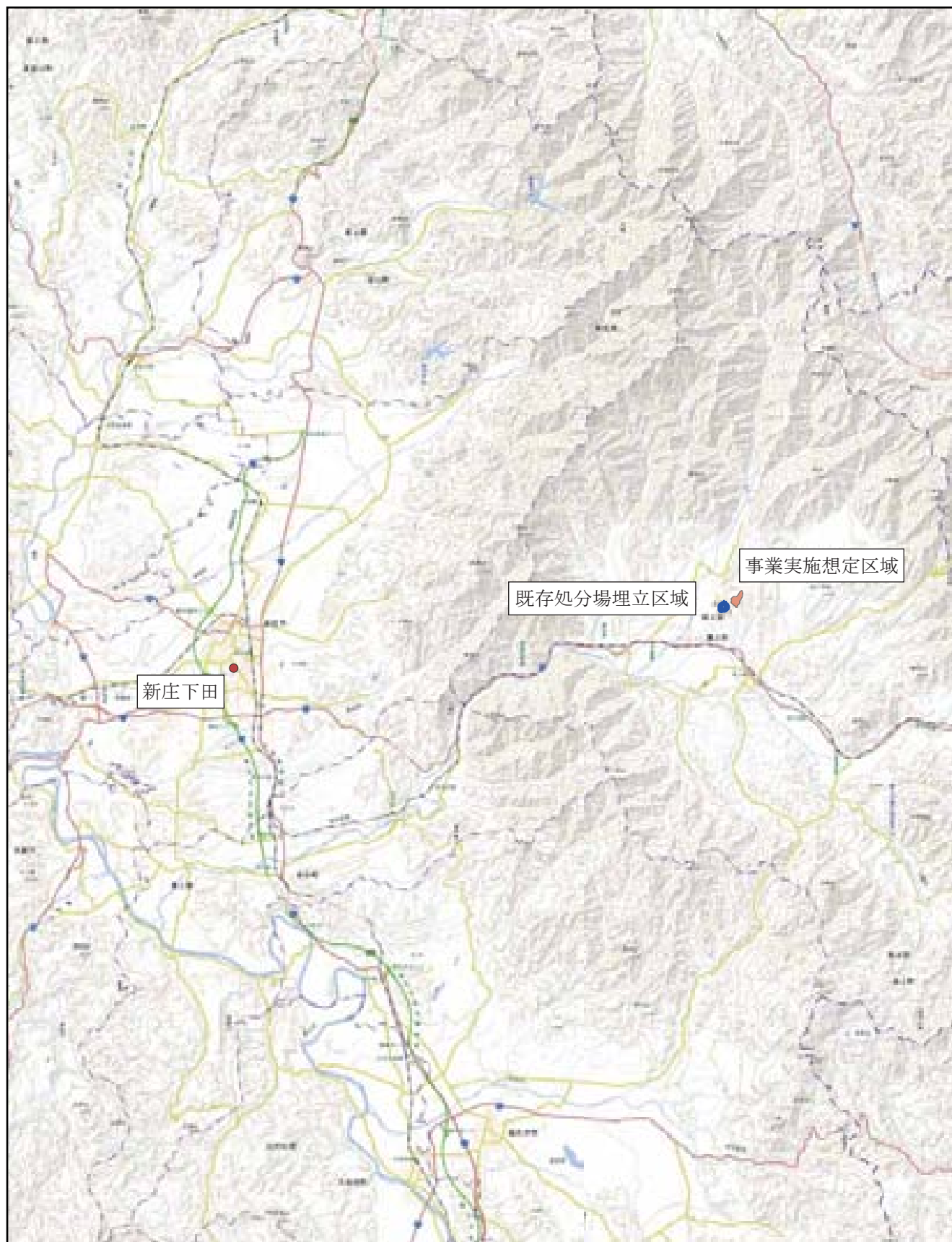
表 3. 1. 7 環境基準達成状況(一般環境大気測定局：新庄下田)

項目		二酸化硫黄 (SO ₂)	二酸化窒素 (NO ₂)	浮遊粒子状物質 (SPM)	光化学オキシダント (Ox)	微小粒子状物質 (PM2.5)
令和3	長期	○	○	○	×	○
	短期					
令和4	長期	○	○	○	×	○
	短期					
令和5	長期	○	○	○	×	○
	短期					
令和6	長期	○	○	○	×	○
	短期					
令和7	長期	○	○	○	×	○
	短期					
環境基準	長期	1時間値の1日平均が0.04ppm以下	1時間値の1日平均が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下	1時間の1日平均値が0.10mg/m ³ 以下	-	1年平均値が15μg/m ³ 以下
	短期	1時間値が0.1ppm以下	-	1時間値が0.20mg/m ³ 以下	1時間値が0.06ppm以下	1日平均値が35μg/m ³ 以下

※：表中にの「○」は環境基準達成、「×」は環境基準非達成を示す。

出典：「山形県の大気・水環境等の状況」（令和8年6月 山形県HP）

(<https://www.pref.yamagata.jp/documents/2242/r7kankyousyousai.pdf>)



凡例

-  : 事業実施想定区域
-  : 既存処分場埋立区域
-  : 一般環境大気測定局（新庄下田）



図 3.1.4 一般環境大気測定局位置図

2) 騒音の状況

(1) 一般環境騒音の状況

事業実施想定区域及びその周辺における一般環境騒音の状況について、山形県及び最上町で公表されている測定結果はない。

(2) 道路交通騒音の状況

事業実施想定区域及びその周辺における道路交通騒音の状況について、山形県及び最上町で公表されている測定結果はない。

(3) 騒音に係る苦情の発生状況

騒音に係る公害苦情受理件数は、「山形県統計年鑑（令和 6 年度）」によると、県内で令和 4 年度が 70 件、令和 5 年度が 64 件、令和 6 年度が 65 件であった。

3) 振動の状況

(1) 環境振動の状況

事業実施想定区域及びその周辺における環境振動の状況について、山形県及び最上町で公表されている測定結果はない。

(2) 道路交通振動の状況

事業実施想定区域及びその周辺における道路交通振動の状況について、山形県及び最上町で公表されている測定結果はない。

(3) 振動に係る苦情の発生状況

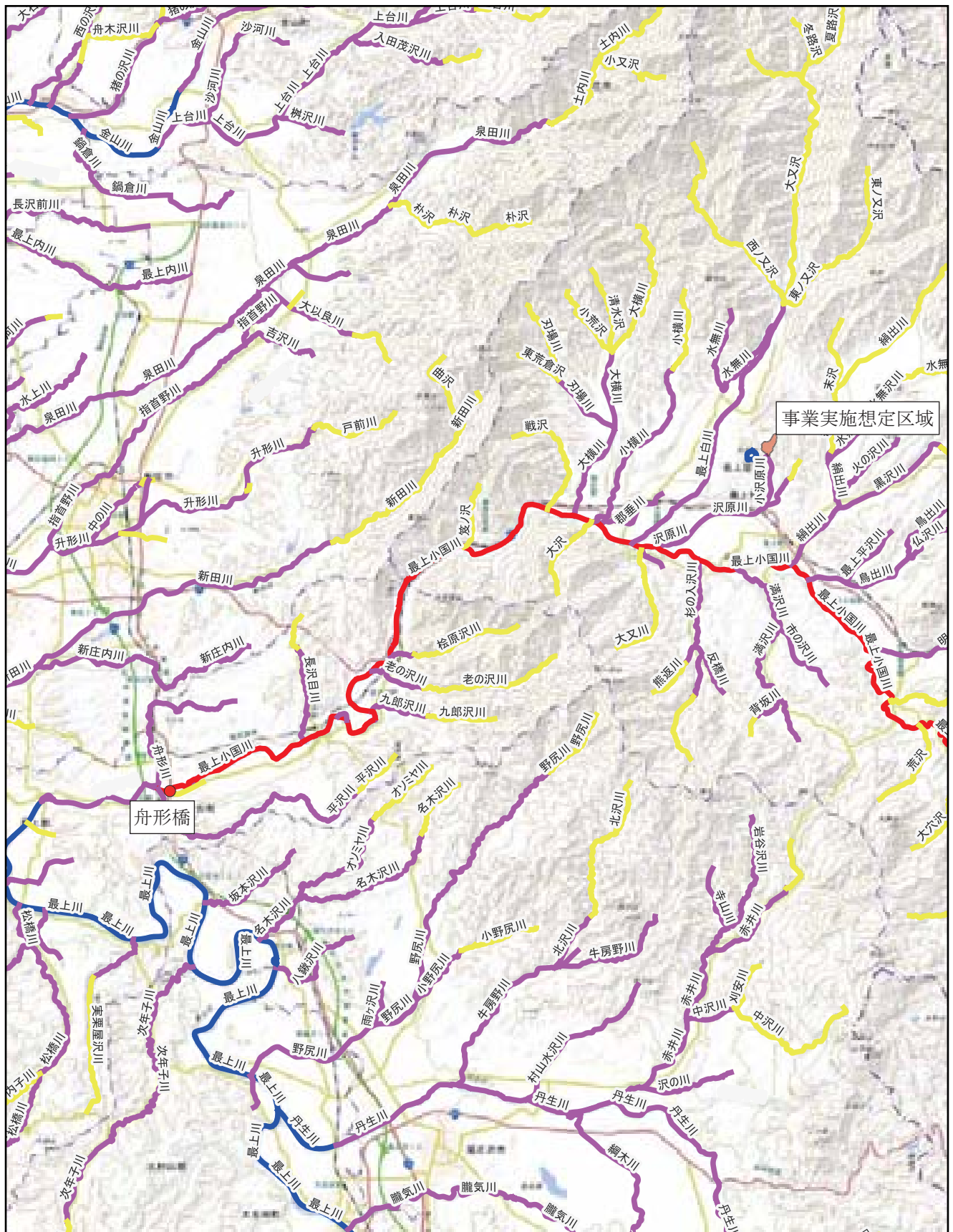
振動に係る公害苦情受理件数は、「山形県統計年鑑（令和 6 年度）」によると、県内で令和 4 年度が 6 件、令和 5 年度が 4 件、令和 6 年度が 3 件であった。

4) 水質の状況

(1) 公共用水域常時監視

山形県内における水質の状況について、「令和 7 年度水質測定計画」（山形県）によると、河川 77 地点、湖沼 9 地点、海域 12 地点で公共用水域常時監視が実施される。

事業実施想定区域及びその周辺の下流の公共用水域常時監視は、事業実施想定区域から約 18km 離れた「最上小国川 舟形橋」である。令和 6 年度の最上小国川舟形橋における水質測定結果を表 3.1.8 に示し、測定地点を図 3.1.5 に示す。



凡例

- 事業実施想定区域
- 公共用水域常時監視地点（舟形橋）
- : 最上小国川
- : 1級直轄区間
- : 1級指定区間
- : 指定区間外

出典：国土数値情報ダウンロードサイト（国土交通省）
[\(https://nlftp.mlit.go.jp/\)](https://nlftp.mlit.go.jp/)



図 3.1.5 公共用水域常時監視地点図

表 3.1.8 公共用水域水質測定結果（舟形橋）（令和 6 年度）

項目	単位	年間値	環境基準
pH(年間最大値)	—	8.1	6.5以上8.5以下
pH(年間最小値)		7.5	
DO	mg/L	10	7.5以上
BOD	mg/L	0.6	2以下
BOD(75%値)		0.6	
SS	mg/L	11	25以下
大腸菌数	CFU/100mL	7	1000以下
大腸菌数(90%値)		21	
全亜鉛	mg/L	0.006	0.03以下
ノニルフォノール	mg/L	<0.00006	0.0006以下
LAS	mg/L	0.0007	—
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0002	0.002以下
チウラム	mg/L	<0.0006	0.006以下
シマジン	mg/L	<0.0003	0.003以下
チオベンカルブ	mg/L	<0.002	0.02以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	0.18	10以下
フェニトロチオン	mg/L	<0.001	—
イソプロチオラン	mg/L	<0.001	—
ダイアジノン	mg/L	<0.0005	—
亜鉛	mg/L	0.0055	—

出典：「水環境総合情報サイト」（環境省）

(<https://water-pub.env.go.jp/water-pub/mizu-site/mizu/kousui/dataMap.asp>)

(2) 水質に係る苦情の発生状況

水質に係る公害苦情受理件数は、「山形県統計年鑑（令和 6 年度）」によると、山形県内で令和 4 年度が 76 件、令和 5 年度が 76 件、令和 6 年度が 85 件であった。

(3) 既存処分場における浸透水水質検査

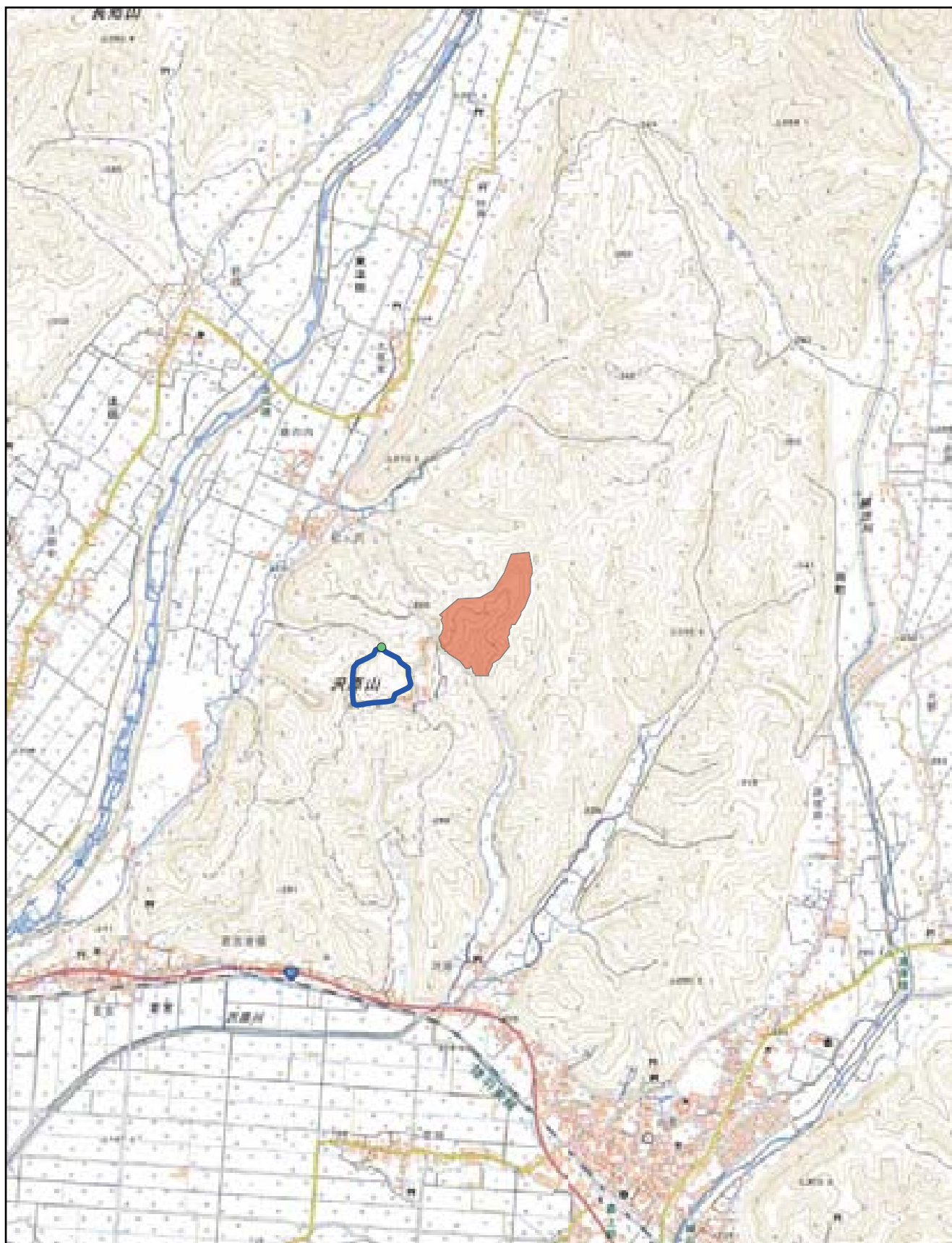
事業実施想定区域に隣接する既存処分場では、図 3.1.6 に示す場内 1 地点で浸透水の定期（年 2 回）水質検査を一般廃棄物の最終処分場及び産業廃棄物の最終処分場に係る技術上の基準を定める省令の別表第二（地下水等検査項目）を実施している。検査結果は、表 3.1.9 に示すとおり基準を満足している。

表 3.1.9 既存処分場の浸透水水質検査結果

No.	項目	単位	2025年		基準値 ^{注1)}	適・不適
			5月9日	11月19日		
1	アルキル水銀	mg/L	不検出	不検出	検出されないこと	○
2	総水銀	mg/L	0.0005未満	0.0005未満	0.0005以下	○
3	カドミウム	mg/L	0.0003未満	0.0003未満	0.003以下	○
4	鉛	mg/L	0.005未満	0.005未満	0.01以下	○
5	六価クロム	mg/L	0.01未満	0.01未満	0.02以下	○
6	砒素	mg/L	0.005未満	0.005未満	0.01以下	○
7	全シアン	mg/L	不検出	不検出	検出されないこと	○
8	P C B	mg/L	不検出	不検出	検出されないこと	○
9	トリクロロエチレン	mg/L	0.001未満	0.001未満	0.01以下	○
10	テトラクロロエチレン	mg/L	0.0005未満	0.0005未満	0.01以下	○
11	ジクロロメタン	mg/L	0.0002未満	0.0002未満	0.02以下	○
12	四塩化炭素	mg/L	0.0002未満	0.0002未満	0.002以下	○
13	1,2-ジクロロエタン	mg/L	0.0005	0.0004未満	0.004以下	○
14	1,1-ジクロロエチレン	mg/L	0.002未満	0.002未満	0.1以下	○
15	1,2-ジクロロエチレン	mg/L	0.004未満	0.004未満	0.04以下	○
16	1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	0.0005未満	0.0005未満	1以下	○
17	1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	0.0006未満	0.0006未満	0.006以下	○
18	1,3-ジクロロプロペン	mg/L	0.0002未満	0.0002未満	0.002以下	○
19	チウラム	mg/L	0.0006未満	0.0006未満	0.006以下	○
20	シマジン	mg/L	0.0003未満	0.0003未満	0.003以下	○
21	チオベンカルブ	mg/L	0.002未満	0.002未満	0.02以下	○
22	ベンゼン	mg/L	0.001	0.001	0.01以下	○
23	セレン	mg/L	0.002未満	0.002未満	0.01以下	○
24	1,4-ジオキサン	mg/L	0.006	0.005未満	0.05以下	○
25	クロロエチレン (別名塩化ビニル又は塩化ビニルモノマー)	mg/L	0.0002未満	0.0002未満	0.002以下	○

注1) 「一般廃棄物の最終処分場及び産業廃棄物の最終処分場に係る技術上の基準を定める省令」(公布日：昭和52年3月14日 総理府・厚生省令第1号 / 最終改正日：令和8年4月1日 環境省令第7号)の別表第二による。

出典：「計量証明書」(株式会社 最上クリーンセンター 資料)



凡例



：事業実施想定区域



：既存処分場埋立区域



：既存処分場の浸透水調査地点



縮尺：1/25,000

0m 250m 500m 750m 1000m

図 3.1.6

既存処分場の浸透水調査地点位置図

6) 地下水の水質

(1) 山形県地下水水質測定

山形県における地下水の水質の状況は、「令和7年度山形県の大気・水環境等の状況」（山形県HP 公表資料）によると、概況調査として山形市、村山地区、置賜地区の37地点、汚染井戸周辺地区調査として1市町村2地点、継続監視調査として20市町村39地点で地下水調査が実施されている。

事業実施想定区域がある最上町では、概況調査、汚染井戸周辺地区調査及び継続監視調査で公表されている測定結果はない。表3.1.10に令和7年度地下水水質測定結果を示す。

表 3.1.10 令和7年度地下水水質調査結果

調査区分	市町村数	調査地点数	基準超過地点数
概況調査	12	37	1
汚染井戸周辺地区調査	1	2	1
継続監視調査	20	39	24
全体	24	78	

出典：山形県の大気・水環境等の状況(令和8年6月 山形県HP)

(<https://www.pref.yamagata.jp/documents/2242/r7kankyousyousai.pdf>)

(2) 既存処分場における地下水水質調査

事業実施想定区域に隣接する既存処分場では、地下水の定期水質検査(年1回、27項目)を実施している。既存処分場の地下水調査位置を図3.1.7に示し、調査の結果を表3.1.11に示す。地下水水質調査は、一般廃棄物の最終処分場及び産業廃棄物の最終処分場に係る技術上の基準を定める省令の別表第二(地下水等検査項目)を実施しており、全ての調査項目で基準を満たしている。

表 3.1.11 既存処分場の地下水調査結果

項目	単位	最終処分場 上流側観測井戸	最終処分場 下流側観測井戸	基準値 ^{注1)}
アルキル水銀	mg/L	0.0005未満	0.0005未満	検出されないこと
総水銀	mg/L	0.0005未満	0.0005未満	0.0005以下
カドミウム	mg/L	0.0003未満	0.0003未満	0.003以下
鉛	mg/L	0.005未満	0.005未満	0.01以下
六価クロム	mg/L	0.01未満	0.01未満	0.02以下
砒素	mg/L	0.005未満	0.005未満	0.01以下
全シアン	mg/L	0.1未満	0.1未満	検出されないこと
P C B	mg/L	0.0005未満	0.0005未満	検出されないこと
トリクロロエチレン	mg/L	0.001未満	0.001未満	0.01以下
テトラクロロエチレン	mg/L	0.0005未満	0.0005未満	0.01以下
ジクロロメタン	mg/L	0.002未満	0.002未満	0.02以下
四塩化炭素	mg/L	0.0002未満	0.0002未満	0.002以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L	0.0004未満	0.0004未満	0.004以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	0.002未満	0.002未満	0.1以下
1,2-ジクロロエチレン	mg/L	0.004未満	0.004未満	0.04以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	0.0005未満	0.0005未満	1以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	0.0006未満	0.0006未満	0.006以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	0.0002未満	0.0002未満	0.002以下
チウラム	mg/L	0.0006未満	0.0006未満	0.006以下
シマジン	mg/L	0.0003未満	0.0003未満	0.003以下
チオベンカルブ	mg/L	0.002未満	0.002未満	0.02以下
ベンゼン	mg/L	0.001未満	0.001未満	0.01以下
セレン	mg/L	0.002未満	0.002未満	0.01以下
1,4-ジオキサン	mg/L	0.005未満	0.005未満	0.05以下
クロロエチレン (別名塩化ビニル又は塩化 ビニルモノマー)	mg/L	0.0002未満	0.0002未満	0.002以下

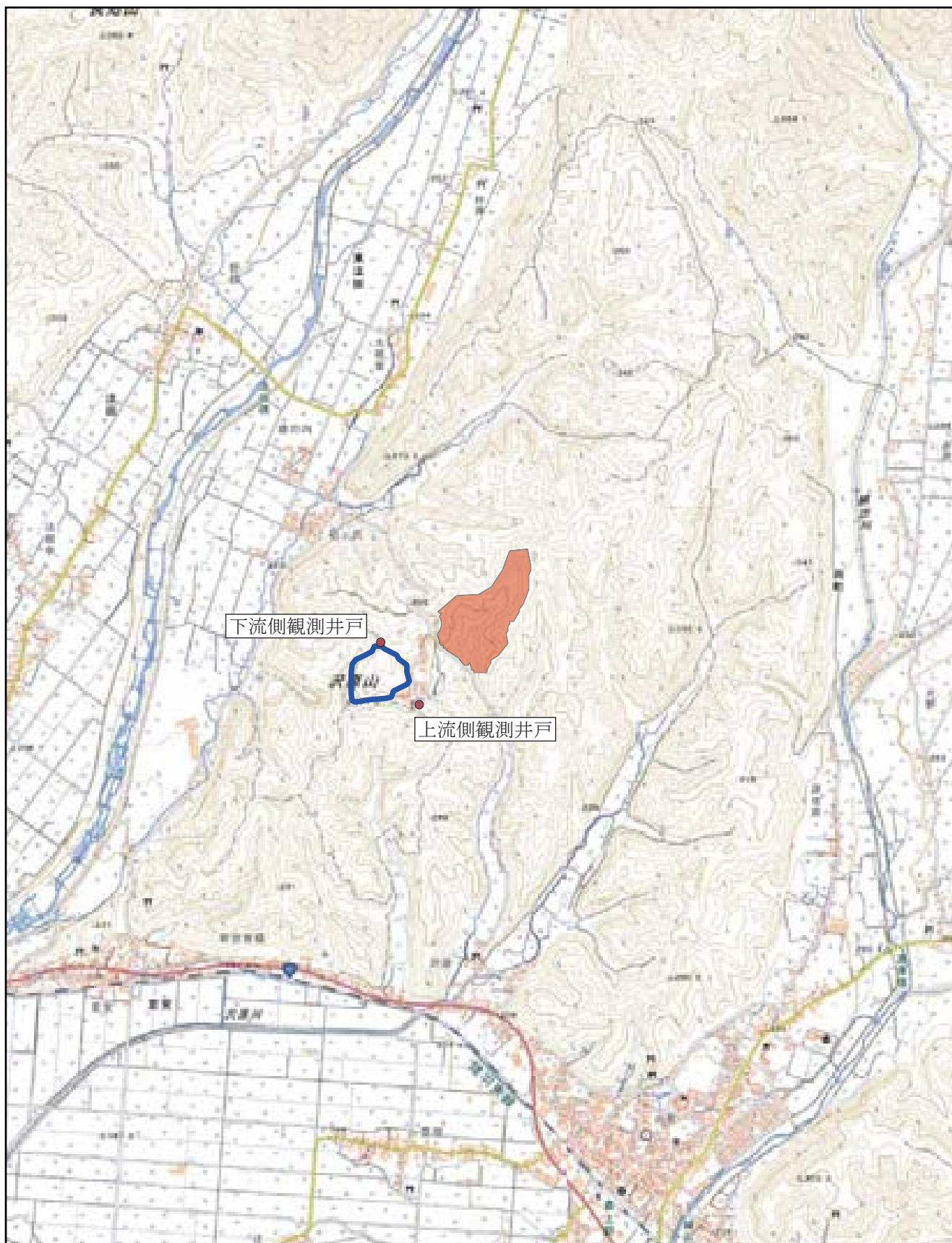
注1)：一般廃棄物の最終処分場及び産業廃棄物の最終処分場に係る技術上の基準を定める省令

公布日：昭和52年3月14日 総理府・厚生省令第1号 最終改正：令和8年4月1日

出典：「計量証明書」(株式会社最上クリーンセンター資料)(採取日：令和7年11月19日)

7) 水底の底質の状況

事業実施想定区域及びその周辺における底質の状況について、山形県及び最上町で公表されている測定結果はない。



凡例

 : 事業実施想定区域
  : 既存処分場埋立区域

 : 既存処分場の地下水調査地点

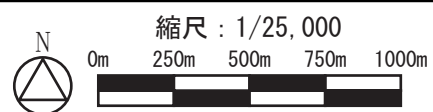


図 3.1.7

既存処分場の地下水調査地点位置図

3.1.4 土壌及び地盤

1) 土壌状況

事業実施想定区域及びその周辺の土壌を図 3.1.8(1)～(2)に示す。

事業予定地の土壌は黒ボク土壌（向町 2a 統）及び（向町 2b 統）と、褐色森林土壌（向町 2a 統）、腐植質黒ボクグライ土壌（八木橋統）からなっている。

「土地分類基本調査 鳴子・薬菜山」（平成 11 年 2 月、山形県企画調整部土地対策課）によれば、黒ボク土壌（向町 2a 統）は丘陵地形の緩い尾根の凸部など地形的に乾燥しやすい場所に分布する。林地の生産力は低く、コナラ、クリを主体とする落葉広葉樹林になっている場合が多く、スギ等の針葉樹の人工造林地としても利用されている。黒ボク土壌（向町 2b 統）は 2a 統と隣接、または取り囲むように斜面下部や緩斜面の凹部の水分供給の潤沢な地形に分布する。林地の生産力は高くスギの人工造林地として利用されている。

褐色森林土壌（向町 2a 統）は山地の尾根や山腹中部から上部に分布する 1 統と、斜面下部に分布する 2b 統の間に分布している。ミズナラ、ブナ等の広葉樹の生育は良好で、スギの造林地としても利用されている。

腐植質黒ボクグライ土壌（八木橋統）は非固結火成岩を母材とし、風積した黒ボク土が二次堆積した土壌である。排水は不良で、土性は表層・次層とも粘質である。土壌の生産力は低いとされている。

2) 土壌汚染

「土壌汚染対策法に基づく要措置区域・形質変更時要届出区域」（環境省ホームページ）によると、山形県では 17 区域が指定されているが、事業実施想定区域及びその周辺における要措置区域及び形質変更時要届出区域の指定はなく、土壌汚染の報告はない。

出典：「土壌汚染対策法に基づく要措置区域・形質変更時要届出区域」
（令和 8 年 4 月閲覧 環境省 HP）(<http://www.env.go.jp/water/dojo/wpcl.html>)

3) 地盤沈下

地盤沈下に関して山形県では、「山形県地下水の採取の適正化に関する条例」（昭和 51 年 3 月 31 日 山形県条例第 16 号(平成 15 年 7 月改正)）を制定し、地下水の水位の異常な低下等の障害が発生している山形地域(山形市)及び米沢地域(米沢市、南陽市、高畠町、川西町)において、揚水機の吐出口の断面積による規制等を行っているが、事業実施想定区域及びその周辺は、地下水採取適正化地域には含まれていない。

また、「令和 6 年度までの地下水位・地盤沈下等観測結果について」（令和 8 年 4 月閲覧 山形県 HP）によると、地域の地下水位と地盤沈下の状況について把握するため、地下水の水位観測及び地盤変動量の観測施設(地下水位 27 地点、地盤 8 地点)を設置し、継続的な監視を行っている。

なお、地盤沈下は、山形市と米沢市で観測されているが、事業実施想定区域及びその周辺では地盤沈下に関する報告はない。

出典：令和 6 年度までの地下水位・地盤沈下等観測結果について（令和 8 年 4 月閲覧 山形県 HP）

凡 例

山地・丘陵地の土壌 Mountains and hills soils

黒ボク土壌 Ando soils

Mm-2a	内町2a統 Mukamachi-2a
Gz-2a	鎮山2a統 Ginzan-2a
Mm-2b	内町2b統 Mukamachi-2b
Gz-2b	鎮山2b統 Ginzan-2b

乾性褐色森林土壌 Dry brown forest soils

Mm-1	内町1統 Mukamachi-1
Gz-1	鎮山1統 Ginzan-1

褐色森林土壌 Brown forest soils

Mm-2a	内町2a統 Mukamachi-2a
Gz-2a	鎮山2a統 Ginzan-2a
Mm-2b	内町2b統 Mukamachi-2b
Gz-2b	鎮山2b統 Ginzan-2b

乾性ポドゾル土壌 Dry podzols soils

Mm-1	内町1統 Mukamachi-1
Gz-1	鎮山1統 Ginzan-1

湿性ポドゾル土壌 Wet podzols soils

Mm-2	内町2統 Mukamachi-2
Gz-2	鎮山2統 Ginzan-2

岩石地 Rock land



台地および台地地域の土壌 Lowland and upland soils

黒ボク土壌(03) Ando soils

Faw	藤沢統 Futsuwa
Nom	野々村統 Nonomura
Shr	七本塚統 Shichihonzaka
Humic ando soils (03D)	
Okw	大川口統 Okawaguchi

多湿黒ボク土壌(04) Ando soils (wet)

Thick humic ando soils (04D)	
Fk	深井沢統 Fukazawa
Rich humic ando soils (04C)	
Hk	樋の口統 Hinokuchi
Humic ando soils (04D)	
Shn	新永統 Shinonaga
Icm	一茂市統 Ichimoda

Ando soils (light colored, wet)	
Kjb	越前原統 Koshijbara

黒ボクグライ土壌(05) Ando gley soils

Humic ando gley soils (05B)	
Ygh	八木橋統 Yaghashi

黄色土壌(10) Yellow soils

Yellow soils (fine textured, mottling)	
Tdn	登田統 Tadenuma

褐色低地土壌(12) Brown lowland soils

Brown lowland soils (gravelly, mottling)	
lr	井沢野統 Irisawa

灰色低地土壌(13) Gray lowland soils

Gray lowland soils (fine textured, gray)	
Km	鴨島統 Kamoshima
Gray lowland soils (gravelly, gray)	
Kok	国領統 Kokuryou
Gray lowland soils (fine textured, grayish brown)	
Kan	金田統 Kaneda
Ttr	多々良統 Tatara
Gray lowland soils (gravelly, grayish brown)	
Ak	赤池統 Akaike
Mtm	松本統 Matsumoto
Kay	河山統 Kayama

グライ土壌(14) Gley soils

Strong gley soils (fine textured)	
Nsh	野山統 Nishiyama
Strong gley soils (medium and coarse textured)	
Tsk	滝の尾統 Takino
Gley soils (fine textured)	
Aoo	浅津統 Asazu

黒泥土壌 Muck soils

Imn	今の満統 Imanura
-----	-----------------

その他 Miscellaneous

No classified land	
①	試坑点位置および番号 Locality and number of pit
—	統の界線 Boundary

○ : 事業予定地
□ : 調査対象地域

1 : 50,000

資料: 「土地分類基本調査 鳴子・薬菜山」土壌図
平成 11 年 3 月、山形県企画調整部土地対策課

図 3.1.8(1) 事業予定地周辺の土壌

凡 例



図 3.1.8(2) 事業予定地周辺の土壌

3.1.5 地形及び地質

1) 地形及び地質の状況

(1) 地形

事業実施想定区域及びその周辺の地形分類を図 3.1.9(1)～(2)に示す。

事業実施想定区域の西には沢原山（標高 312m）が位置している。事業実施想定区域の東側は主に中・急斜面の山地及び丘陵地であり、南側と西側には最上小国川と最上白川が形成した氾濫原が広がっている。

また、事業実施想定区域は、「山形県すぐれた自然図」（昭和 53 年 3 月、山形県）によれば、「向町カルデラ」と呼ばれる地形の一部になっている。このカルデラについては、「土地分類基本調査 新庄」（昭和 55 年 3 月、山形県企画調整部土地対策課）では、東西約 12.5km、南北約 11km のやや楕円形であるとしている。また、「日本の第四紀火山」（平成 26 年 2 月調べ、独立行政法人産業技術総合研究所のホームページ）では、「向町カルデラ」はデイサイト火砕流と約 80 万年～60 万年前の後カルデラ活動による安山岩質の中央火口丘（明神山、糠塚山）からなっているとしている。

(2) 地質

事業実施想定区域及びその周辺の地質を図 3.1.10(1)～(2)に示す。

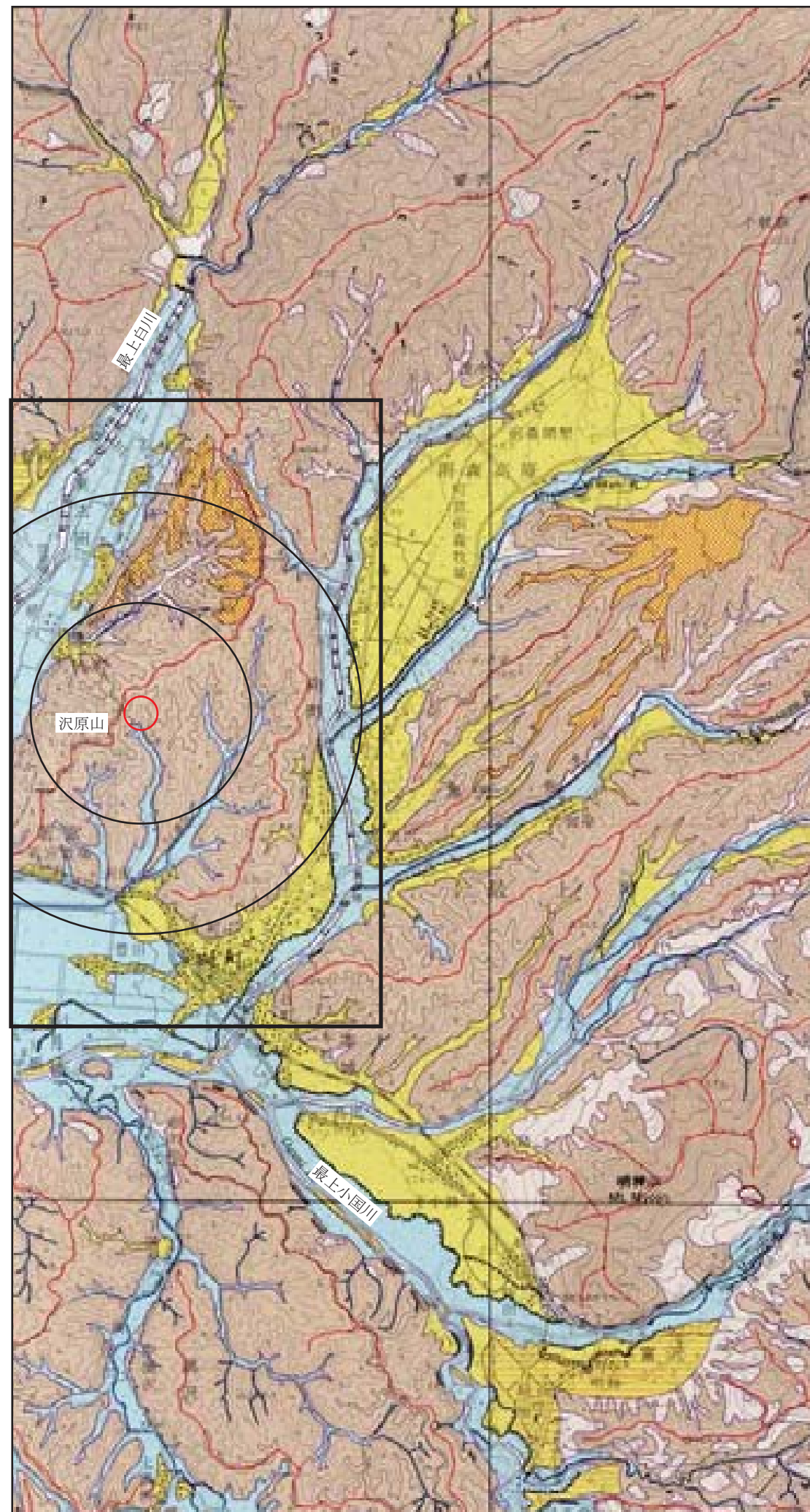
事業実施想定区域の地質は、「土地分類基本調査 鳴子・薬菜山」（平成 11 年 3 月、山形県企画調整部土地対策課）によれば、第四紀完新世（約 1 万年前～現在）から更新世（約 258 万年前～約 1 万年前）に形成された半固結堆積物の「礫、砂、シルト、軽石質火山灰（一刃層）」と「軽石質火山灰（満沢層）」からなっているとしている。

一方、事業実施想定区域の周辺は、「礫、砂、シルト、軽石質火山灰（一刃層）」と「軽石質火山灰（満沢層）」の地層は、その周辺は第四紀完新世に形成された未固結堆積物の「礫、砂及び泥（段丘堆積物）」や「砂礫・礫・泥（河床堆積物・湿沼地堆積物）」からなっている。

また、「土地分類基本調査 新庄」（昭和 55 年 3 月、山形県企画調整部土地対策課）によれば、事業予定地西側の地質は、第四紀完新世に形成された未固結堆積物の「礫および砂（沖積堆積物）」からなっており、一部、更新世に形成された「火山砕屑物」や「礫および砂（石英安山岩質火山灰を伴う）」からなっている。なお、「火山砕屑物」は鬼首カルデラ及び向町カルデラからの噴出物としている。

2) 重要な地形及び地質

事業実施想定区域及びその周辺に重要な地形及び地質はない。



凡 例

○：事業予定地

□：調査対象地域

山地、火山地および丘陵地

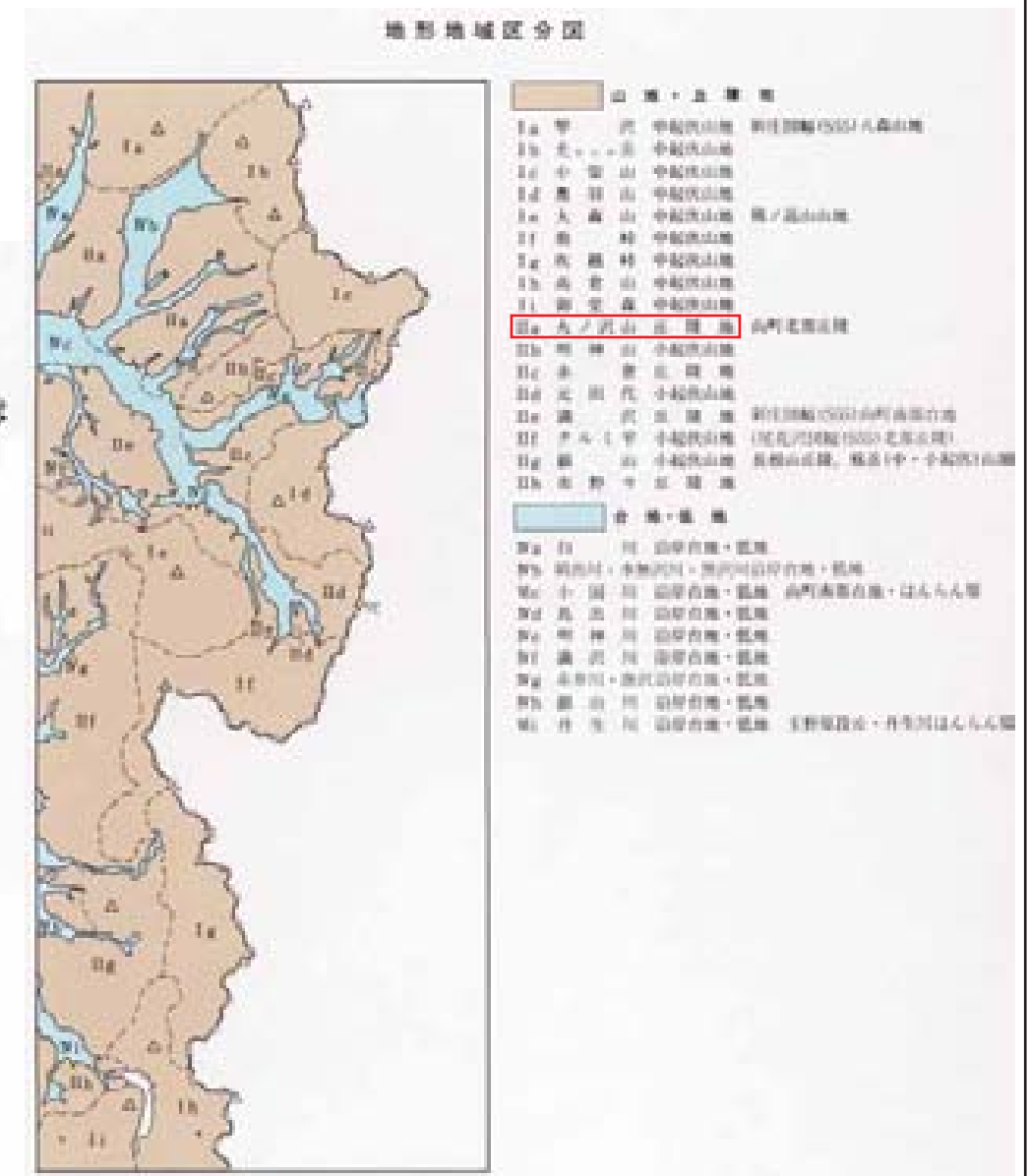
- 中・急斜面
 - 山地の山腹・山麓緩斜面、多くは地すべり滑落地・崩積地・崖錐などの堆積面
- 山地斜面分類の概念図

台地および低地

- 高位・中位段丘面
- 低位段丘面
- 扇状地・崖錐・自然堤防
- 谷底平野・氾濫原・低湿地

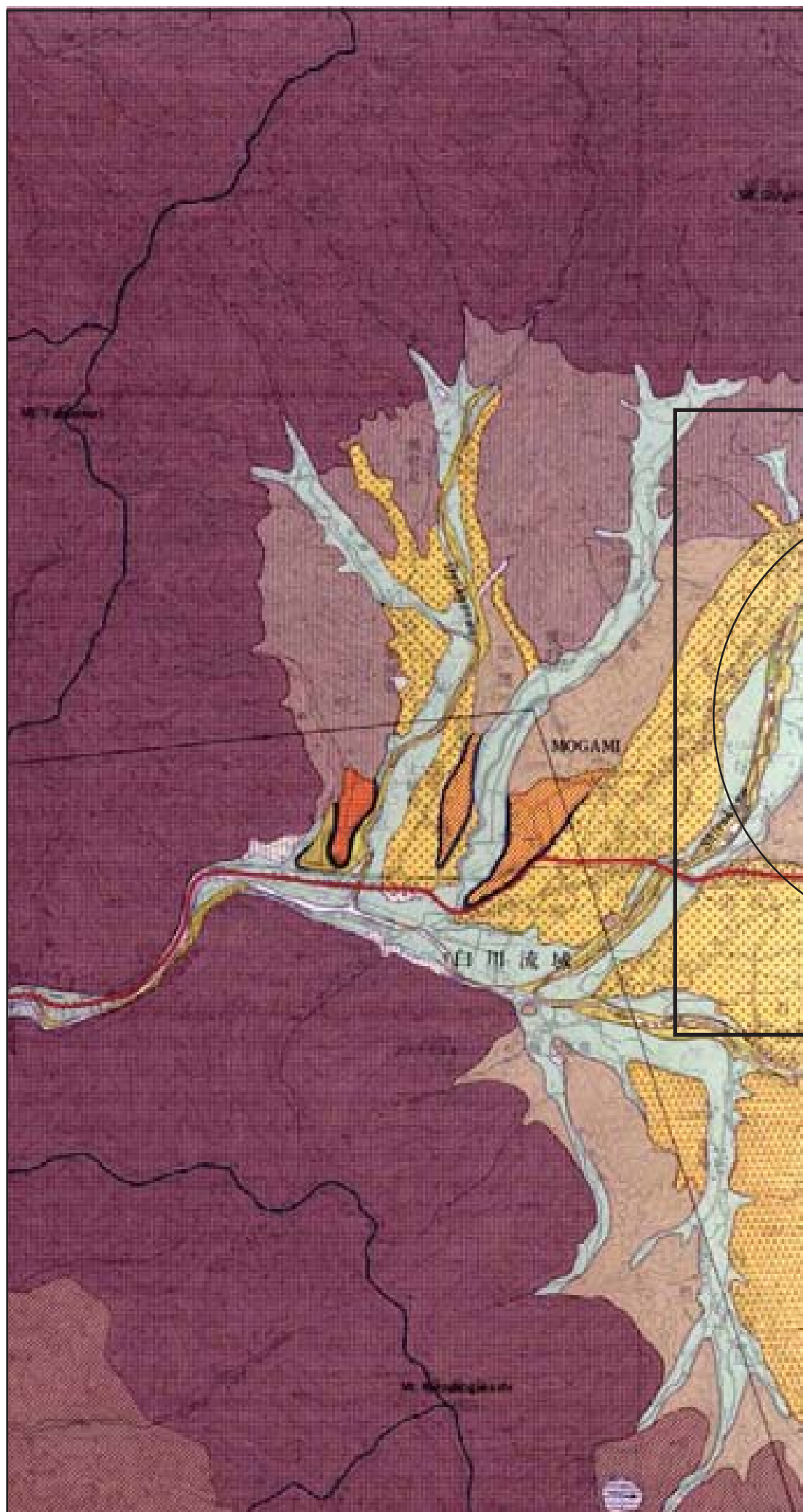
そ の 他

- 主要分水界
- 崩壊地形（新規、裸地）
- 露岩
- 地すべり地の変形地形
- 遷移点および高位谷
- 崖
- 人工改変地（切り取り・盛り土）
- 河川・ため池・堰・ダムサイト・湛水域
- 国道および主要地方道
- 地形界



資料：「土地分類基本調査 鳴子・薬菜山」地形分類図
平成 11 年 3 月、山形県企画調整部土地対策課

図 3.1.9(1) 事業実施想定区域の地形



凡 例

○ : 事業予定地

□ : 調査対象地域

山 地 MOUNTAINS

- 大起伏山地
Large relief mountains
- 中起伏山地
Middle relief mountains
- 小起伏山地
Low relief mountains

丘陵地 HILLY LANDS

- 丘陵地 (I)
Hilly lands (I)
- 丘陵地 (II)
Hilly lands (II)

台地および段丘 UPLANDS AND TERRACES

- 段丘 (I')
Terrace (higher upper)
- 段丘 (I)
Terrace (upper)
- 段丘 (II)
Terrace (middle)
- 段丘 (III)
Terrace (lower)
- 大砂流 (もしくは泥流) 台地
Pyroclastic plateau

低 地 LOWLANDS

- 谷底平野および氾濫原
Valley plain and flood plain
- 扇状地
Fan
- 河 原
Dry river bed

その他 MISCELLANEOUS

- 地すべり地形
Landslide
- 堆積および麓斜面
Talus and colluvial slope
- 崖
Cliff
- 人工改変地 (切り取りによるもの)
Cut and rolled surface
- 河川・湖池・せき
River, irrigation pond, intake dam
- 河川流域界
Catchment boundary of rivers
- 国道及び主要県道
National road, main prefectural road
- 地形界
Boundary of landforms

地形区分図



- | | |
|-------------|--------------|
| I. 山地・火山地 | III. 台地・段丘 |
| Ia 八森山地 | IIIa 新庄段丘 |
| Ib 鶴ノ尾山地 | IIIb 舟形段丘 |
| II. 丘陵 | IIIc 堀内・湯沢段丘 |
| IIa 西山丘陵 | IIId 向町北部段丘 |
| IIb 東山丘陵 | IIIe 向町南部台地 |
| IIc 福田山丘陵 | |
| IId 南山丘陵 | IV. 低地 |
| IIe 福前山丘陵 | IVa 泉田川扇状地 |
| IIIf 向町北部丘陵 | IVb 舟形川氾濫原 |
| | IVc 新田川氾濫原 |
| | IVd 最上川氾濫原 |

1 : 50,000



資料 : 「土地分類基本調査 新庄」地形分類図
昭和 55 年 3 月、山形県企画調整部土地対策課

図 3.1.9(2) 事業実施想定区域の地形



		地層の走りと傾斜 Strike and dip of strata
		水平軸 Horizontal axis
		鉛直軸 Vertical axis
		断層 Fault
		伏在及び継断断層 Concealed and inherited fault

α	軟 (弾性波速度1.53km/sec未満)	Soft
β	中 (弾性波速度1.53~3 km/sec)	Medium
γ	硬 (弾性波速度3 km/sec以上)	Hard
a	軟 (耐圧強度100kg/cm未満)	Soft
b	中 (耐圧強度100~400kg/cm)	Medium
c	硬 (耐圧強度400kg/cm)	Hard
α	浅 (約3 m以下)	Shallow
β	中 (約3 ~ 10m)	Medium
γ	深 (約10m以上)	Deep

○ : 事業予定地
□ : 調査対象地域

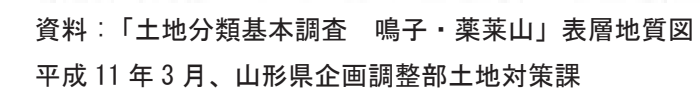


図 3.1.10(1) 事業実施想定区域の地質

3.1.6 植物、動物及び生態系

1) 植物の生育及び分布の状況

植物相及び植生の状況は、当該地域の自然特性を勘案して、事業実施想定区域及びその周辺を対象に、文献及びその他の資料に記載された種について整理した。

なお、事業実施想定区域及びその周辺において、種を抽出した文献その他の資料と調査範囲及び調査対象は、表 3.1.12 に示す。

表 3.1.12 文献及びその他の資料と調査範囲（植物）

文献名	調査範囲
レッドデータブックやまがた 絶滅危惧野生植物 (2013年改訂版) 山形県	最上地方
山形県自然環境現況調査報告書（植物） 平成9年 山形県	最上町
最上町の自然（2014年 最上町自然環境現況調査会編）	最上町
新山形県野生植物目録（2019年 フロラ山形）	内陸北部Ⅱ

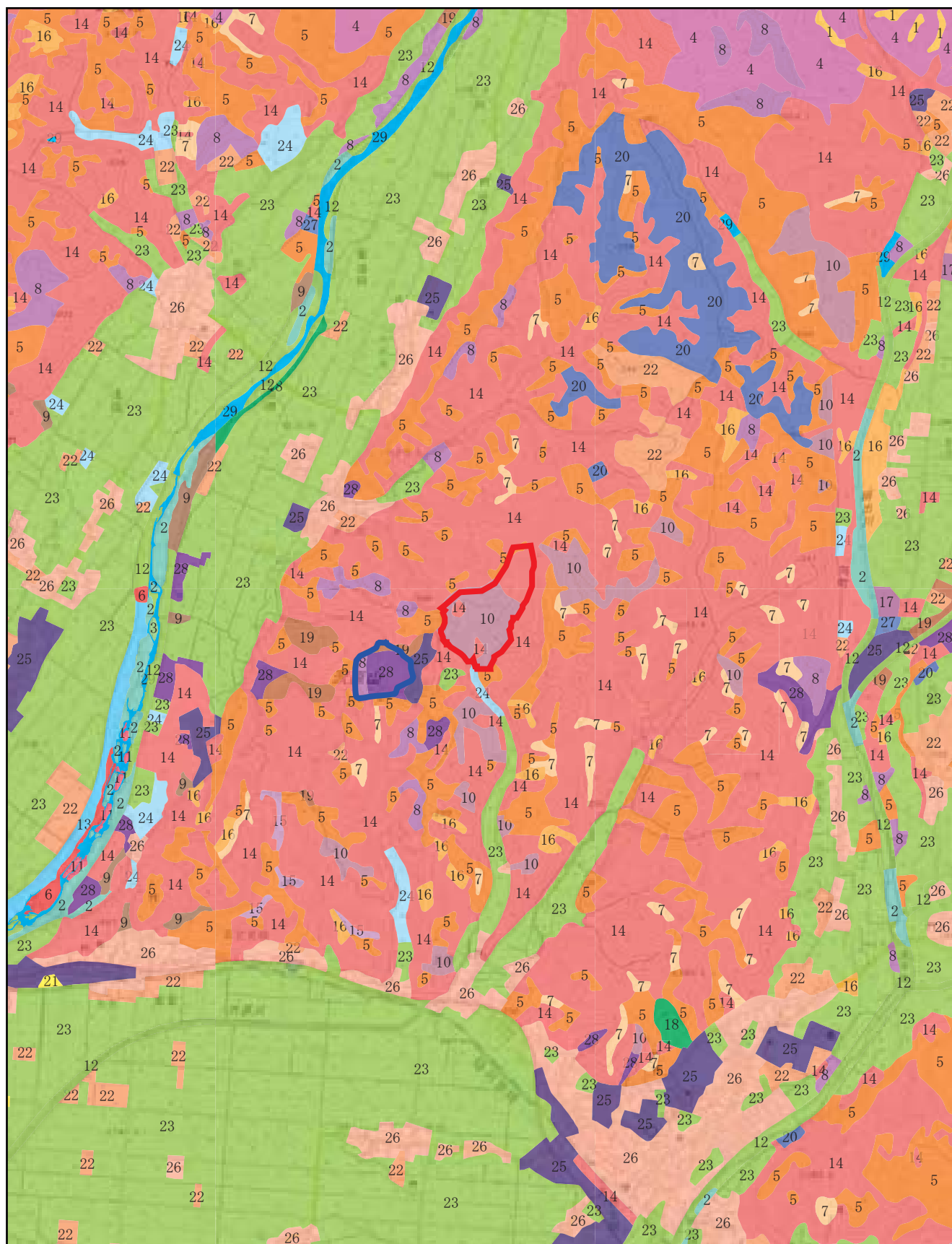
(1) 植生

事業実施想定区域及びその周辺の現存植生図は、図 3.1.11 (1)～(2) に示し、その凡例は、表 3.1.13 に示す。

事業実施想定区域は、伐採跡地群落（Ⅴ）及びスギ・ヒノキ・サワラ植林であり、一部オクチョウジザクラ-コナラ群集である。

植生自然度は、図 3.1.12 (1)～(2) に示す。事業実施想定区域は、植生自然度 4 及び植生自然度 6 であり、一部植生自然度 7 が分布している。

なお、「植生自然度」は、植物社会学的な観点から、群落の自然性がどの程度残されているかを示す一つの指標として導入されたものであり、ランクが 1～10 で区分される。



凡例

 : 事業実施想定区域

 : 既存処分場埋立区域

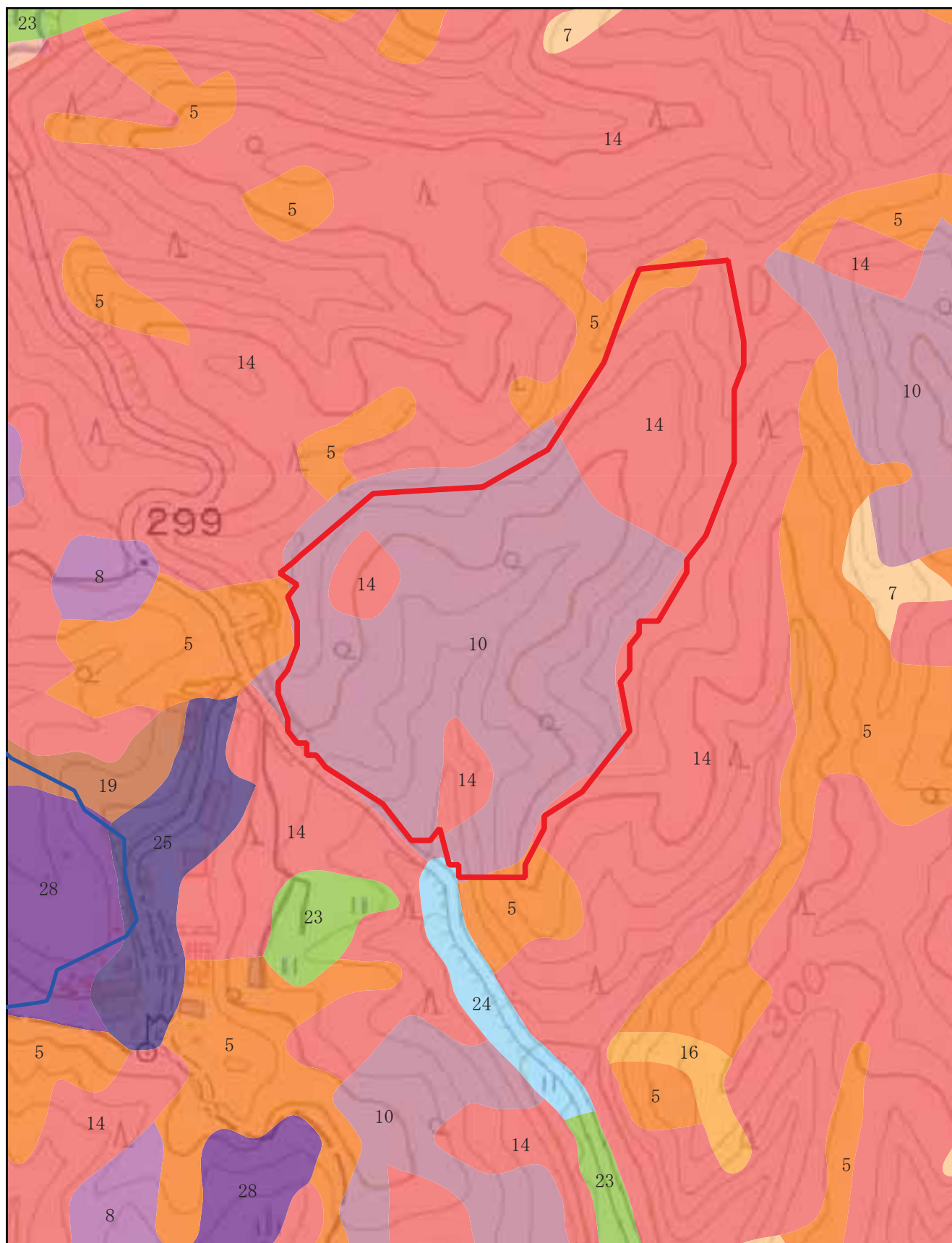
* 植生図の凡例は、表 3.1.13 参照

出典：環境省自然環境局生物多様性センター HP 植生自然度調査 第 6 回、第 7 回
<https://www.biodic.go.jp/>

縮尺：1/25,000

0m 250m 500m 750m 1000m

図 3.1.11(1) 既存植生図



凡例



：事業実施想定区域



：既存処分場埋立区域

* 植生図の凡例は、表 3.1.13 参照

出典：環境省自然環境局生物多様性センター HP 植生自然度調査 第 6 回、第 7 回
<https://www.biodic.go.jp/>

縮尺：1/5,000

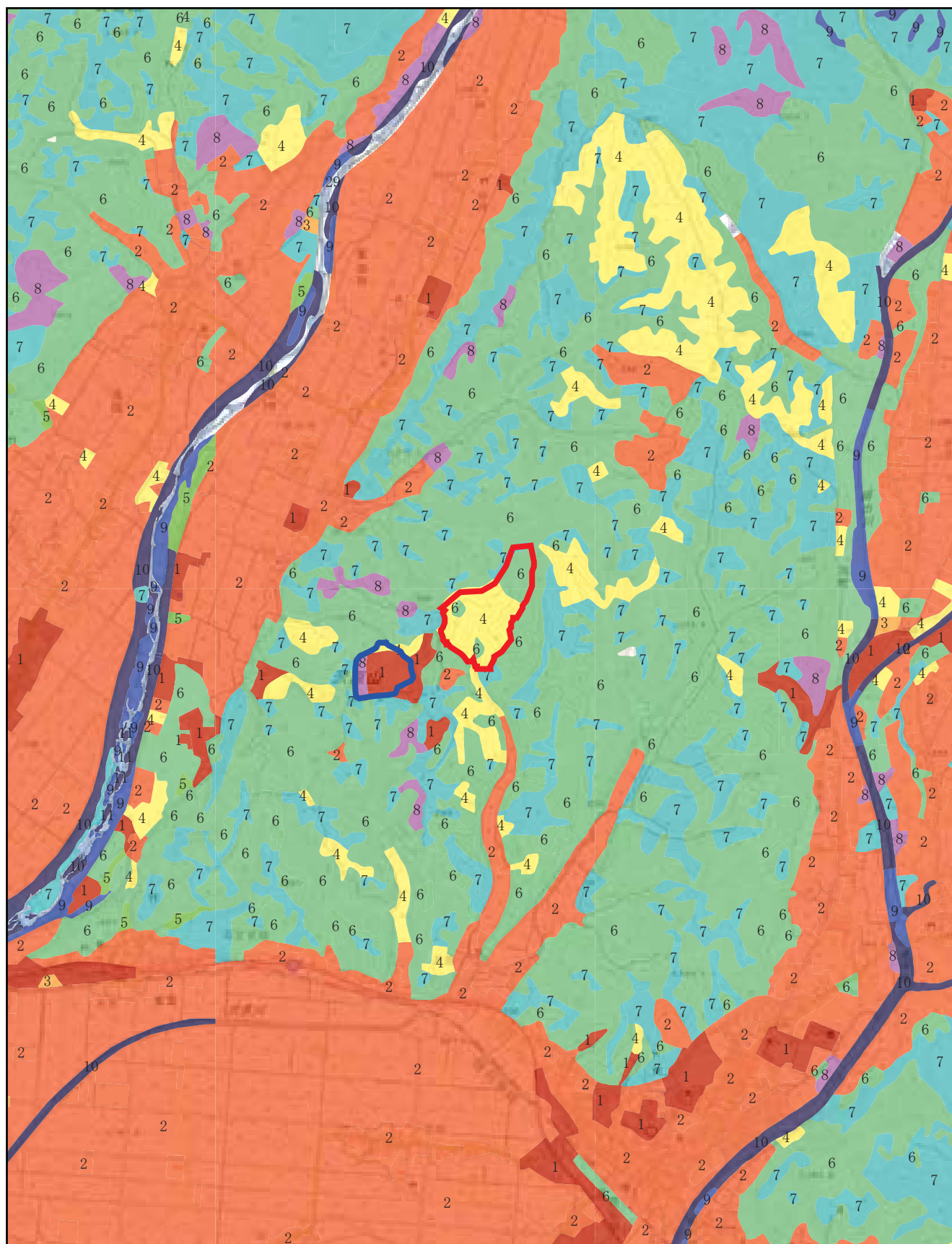


図 3.1.11 (2) 現存植生図

表 3.1.13 現存植生図凡例

凡例番号	凡例コードと凡例名		植生 自然度
1		150100 アカマツ群落 (IV)	9
2		180100 ヤナギ高木群落 (IV)	9
3		180200 ヤナギ低木群落 (IV)	9
4		220103 オオバクロモジミズナラ群集	7
5		220501 オクチョウジザクラコナラ群集	7
6		221200 オニグルミ群落 (V)	7
7		230100 アカマツ群落 (V)	7
8		240102 タニウツギノリウツギ群落	5
9		250200 ススキ群団 (V)	5
10		260000 伐採跡地群落 (V)	4
11		470400 ヨシクラス	10
12		470501 ツルヨシ群集	10
13		470502 オギ群集	10
14		540100 スギ・ヒノキ・サワラ植林	6
15		540200 アカマツ植林	6
16		540700 カラマツ植林	6
17		560100 ゴルフ場・芝地	4
18		560200 牧草地	2
19		570100 路傍・空地雑草群落	4
20		570101 放棄畑雑草群落	4
21		570200 果樹園	3
22		570300 畑雑草群落	2
23		570400 水田雑草群落	2
24		570500 放棄水田雑草群落	4
25		580100 市街地	1
26		580101 緑の多い住宅地	2
27		580200 残存・植栽樹群をもった公園、墓地等	3
28		580400 造成地	1
29		580600 開放水域	

*「自然環境調査 Web-GIS 調査情報ダウンロード 調査ブロック別凡例一覧表」より抜粋



凡例



：事業実施想定区域



：既存処分場埋立区域

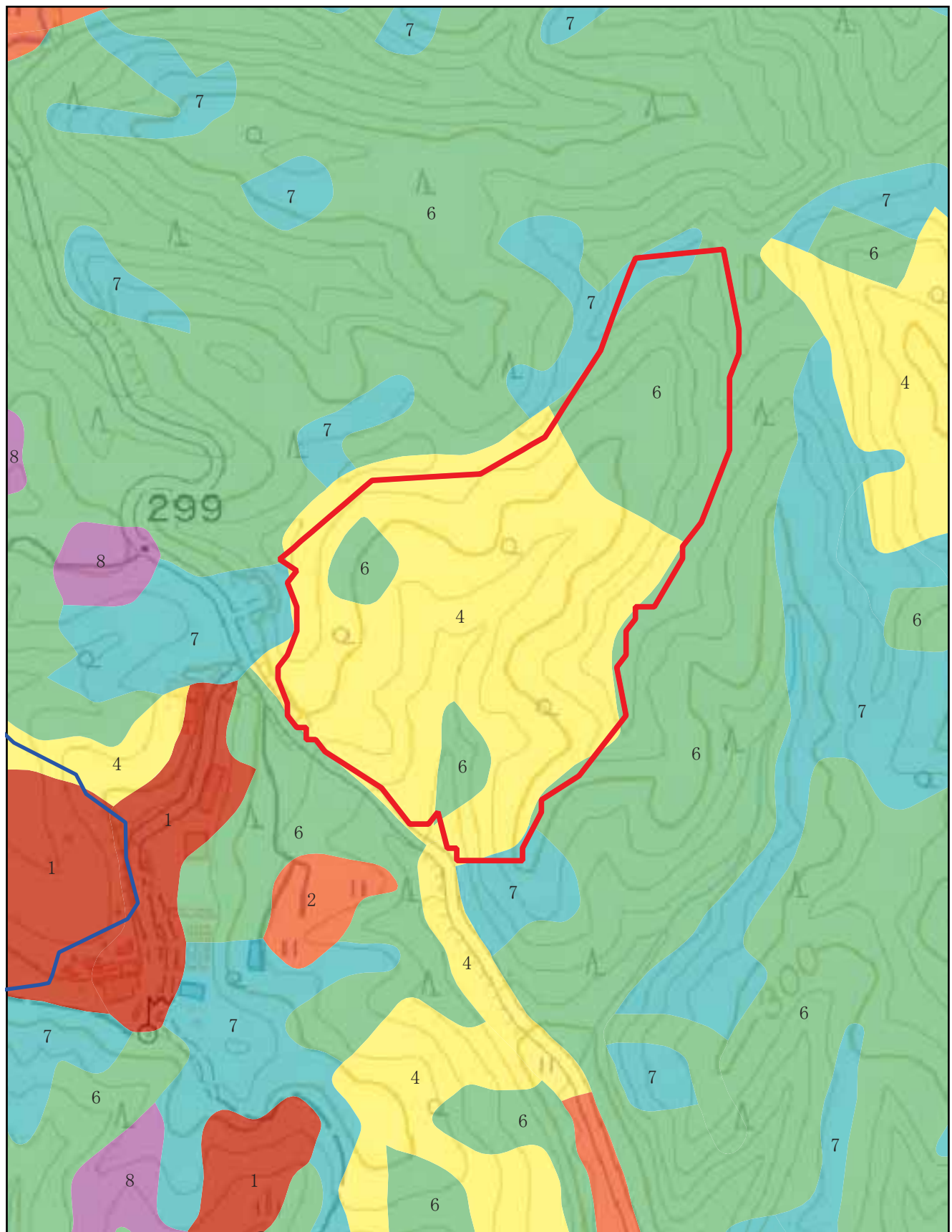
- | | | | |
|------------|-----------|-----------|-----------|
| ■：植生自然度 10 | ■：植生自然度 7 | ■：植生自然度 4 | ■：植生自然度 1 |
| ■：植生自然度 9 | ■：植生自然度 6 | ■：植生自然度 3 | |
| ■：植生自然度 8 | ■：植生自然度 5 | ■：植生自然度 2 | |

縮尺：1/25,000

0m 250m 500m 750m 1000m

出典：環境省自然環境局生物多様性センター HP 植生自然度調査 第 6 回、第 7 回
<https://www.biodic.go.jp/>

図 3.1.12(1) 植生自然度図



凡例



：事業実施想定区域



：既存処分場埋立区域

- | | | | |
|------------|-----------|-----------|-----------|
| ■：植生自然度 10 | ■：植生自然度 7 | ■：植生自然度 4 | ■：植生自然度 1 |
| ■：植生自然度 9 | ■：植生自然度 6 | ■：植生自然度 3 | |
| ■：植生自然度 8 | ■：植生自然度 5 | ■：植生自然度 2 | |

縮尺：1/5,000



出典：環境省自然環境局生物多様性センター HP 植生自然度調査 第6回、第7回
<https://www.biodic.go.jp/>

図 3.1.12(2) 植生自然度図

(2) 植物相

事業実施想定区域及びその周辺の植物相の概要を表 3.1.14 に示す。維管束植物（シダ植物及び種子植物）155 科 1,730 種（亜種、変種、品種及び雑種を含む）が確認されている。

表 3.1.14 植物相の概要

分類		主な抽出種
シダ植物		ヒカゲノカズラ科(9種)、イワヒバ科(4種)、ミズニラ科(2種)、トクサ科(5種)、ハナヤスリ科(9種)、ゼンマイ科(3種)、コケシノブ科(5種)、デンジソウ科(1種)、サンショウモ科(2種)、キジノオシダ科(1種)、コバノイシカグマ科(4種)、イノモトソウ科(6種)、チャセンシダ科(3種)、イワヤシダ科(1種)、ヒメシダ科(12種)、イワデンダ科(2種)、コウヤワラビ科(3種)、シシガシラ科(3種)、メシダ科(36種)、オシダ科(40種)、シノブ科(1種)、ウラボシ科(9種)
		161種
裸子植物		マツ科(3種)、ヒノキ科(6種)、イチイ科(4種)
		13種
被子植物	基部被子植物	ジュンサイ科(1種)、スイレン科(1種)、センリョウ科(2種)、ドクダミ科(1種)、ウマノスズクサ科(5種)、モクレン科(4種)、クスノキ科(3種)
		17種
	単子葉植物	サトイモ科(11種)、チシマゼキショウ科(3種)、オモダカ科(6種)、トチカガミ科(10種)、ヒルムシロ科(10種)、キンコウカ科(3種)、ヤマノイモ科(2種)、シュロソウ科(9種)、イヌサフラン科(2種)、サルトリイバラ科(3種)、ユリ科(14種)、ラン科(65種)、アヤメ科(5種)、ススキノキ科(3種)、ヒガンバナ科(4種)、キジカクシ科(15種)、ツユクサ科(3種)、ミズアオイ科(1種)、ショウガ科(1種)、ガマ科(9種)、ホシクサ科(5種)、イグサ科(15種)、カヤツリグサ科(118種)、イネ科(124種)、タケ亜科(23種)
		464種
	真正双子葉植物	マツモ科(1種)、ケシ科(11種)、アケビ科(2種)、ツツラフジ科(2種)、メギ科(7種)、キンボウゲ科(47種)、アワブキ科(1種)、ツゲ科(1種)、マンサク科(2種)、カツラ科(1種)、ユズリハ科(1種)、スグリ科(3種)、ユキノシタ科(14種)、ベンケイソウ科(7種)、タケノアシ科(1種)、アリノトウグサ科(5種)、ブドウ科(7種)、マメ科(48種)、ヒメハギ科(2種)、グミ科(4種)、クロウメモドキ科(5種)、ニレ科(3種)、アサ科(4種)、クワ科(4種)、イラクサ科(13種)、バラ科(66種)、ブナ科(9種)、クルミ科(2種)、カバノキ科(16種)、ドクウツギ科(1種)、ウリ科(6種)、ニシキギ科(14種)、カタバミ科(8種)、トウダイグサ科(9種)、コミカンソウ科(1種)、ミゾハコベ科(1種)、ヤナギ科(24種)、スマレ科(42種)、オトギリソウ科(6種)、フウロソウ科(5種)、ミソハギ科(7種)、アカバナ科(14種)、ミツバウツギ科(1種)、キブシ科(2種)、ウルシ科(4種)、ムクロジ科(17種)、ミカン科(6種)、ニガキ科(1種)、アオイ科(8種)、ジンチョウゲ科(2種)、アブラナ科(24種)、ビャクダン科(4種)、オオバヤドリギ科(1種)、タデ科(39種)、モウセンゴケ科(1種)、ナデシコ科(25種)、ヒユ科(6種)、ヤマゴボウ科(2種)、ザクロソウ科(1種)、スベリヒユ科(1種)、ミズキ科(5種)、アジサイ科(9種)、ツリフネソウ科(3種)、サクラソウ科(11種)、ツバキ科(5種)、ハイノキ科(1種)、イワウメ科(5種)、エゴノキ科(2種)、マタタビ科(3種)、リョウブ科(1種)、ツツジ科(48種)、アオキ科(1種)、アカネ科(21種)、リンドウ科(11種)、マチン科(1種)、キョウチクトウ科(8種)、ヒルガオ科(20種)、ムラサキ科(12種)、モクセイ科(9種)、オオバコ科(19種)、ゴマノハグサ科(3種)、アゼナ科(3種)、シソ科(58種)、サギゴケ科(3種)、ハエドクソウ科(3種)、ハマウツボ科(15種)、タヌキモ科(6種)、キツネノマゴ科(1種)、クマツヅラ科(1種)、ハナйкаダ科(1種)、モチノキ科(8種)、キキョウ科(11種)、ミツガシワ科(2種)、キク科(133種)、ウコギ科(14種)、セリ科(24種)、ガマズミ科(12種)、スイカズラ科(10種)
		1075種
合計		1730種

出典：「レッドデータブックやまがた 絶滅危惧野生植物(2013年改訂版)」(平成26年山形県)
「山形県自然環境現況調査報告書(植物)」(平成9年 山形県)
「新山形県野生植物目録2019」(令和元年 フロラ山形)

(3) 重要な植物種及び植物群落の分布

植物の重要な種及び重要な群落の選定基準は、表 3. 1. 15(1)～(3)の選定基準に基づき、学術上または希少性の観点から選定した。

表 3. 1. 15(1) 植物の重要な種及び重要な群落の選定基準

選定基準		カテゴリー	文献その他の資料	重要な種	重要な群落
I	「文化財保護法」(昭和25年法律第214号)、「山形県文化財保護条例」(昭和30年山形県条例第27号)、最上町文化財保護条例(昭和51年条例第24号)	特天：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物 県天：山形県指定天然記念物 最天：最上町指定天然記念物	「国指定文化財等データベース」(令和7年6月閲覧 文化庁HP)、「文化財」(令和7年6月閲覧 山形県HP)、「歴史・自然・観光」(令和7年6月閲覧 最上町HP)	○	
II	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年法律第75号に基づく国内希少野生動植物)	国内：国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種 緊急：緊急指定種	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行規則」(平成5年総理府令第9号)	○	
III	「環境省レッドリスト2025」(令和7年 環境省)の掲載種	EX：絶滅…我が国ではすでに絶滅したと考えられる種 EW：野生絶滅…飼育・栽培下でのみ存続している種 CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類…絶滅の危機に瀕している種(現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの) CR：絶滅危惧ⅠA類…ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの EN：絶滅危惧ⅠB類…ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの VU：絶滅危惧Ⅱ類…絶滅の危険が増大している種(現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のカテゴリーに移行することが確実と考えられるもの) NT：準絶滅危惧…存続基盤が脆弱な種(現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種) DD：情報不足…評価するだけの情報が不足している種 LP：絶滅のおそれのある地域個体群…地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの	「環境省報道発表資料環境省レッドリスト2025の公表について」(令和7年6月閲覧 環境省HP)	○	

表 3. 1. 15(2) 植物の重要な種及び重要な群落の選定基準

選定基準		カテゴリー	文献その他の資料	重要な種	重要な群落
IV	「レッドデータブックやまがた 絶滅危惧野生植物(2013年改訂版)」(平成26年 山形県)の掲載種	EX : 絶滅…我が国ではすでに絶滅したと考えられる種 EW : 野生絶滅…飼育・栽培下でのみ存続している種 CR+EN : 絶滅危惧Ⅰ類…絶滅の危機に瀕している種(現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの) CR : 絶滅危惧ⅠA類…ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの EN : 絶滅危惧ⅠB類…ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの VU : 絶滅危惧Ⅱ類…絶滅の危険が増大している種(現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のカテゴリーに移行することが確実と考えられるもの) NT : 準絶滅危惧…存続基盤が脆弱な種(現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種) DD : 情報不足…評価するだけの情報が不足している種 LP : 絶滅のおそれのある地域個体群…地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの	「レッドデータブックやまがた 絶滅危惧野生植物(2013年改訂版)」(平成26年 山形県) 「新山形県野生植物目録2019」(令和元年 フロラ山形)	○	
		植物群落の危急度 a : 植物群落もしくは植物個体群は壊滅状態に近い。自然回復の限界を超えている。 b : 適切な管理を欠く。植物群落もしくは植物個体群の状況は厳しい。現状のまま推移すれば荒廃は進行する。積極的な保全対策が望まれる。 c : 良好な部分もあるが、車道、スキー場、観光、農林施業などの規模の大きい開発が進み、全体として攪乱の兆候が進行している。人為的圧迫を排除すれば、自然回復は可能である。 d : 盗採のほか、歩道や小規模な施設の周辺部など一部に問題がある。全体として保護されている。人為的圧迫が増大しない限り、現状維持は可能である。 e : ごく一部を除いて良好な状態が維持されている。			○

表 3. 1. 15(3) 植物の重要な種及び重要な群落の選定基準

選定基準		カテゴリー	文献その他の資料	重要な種	重要な群落
V	「第5回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」(平成12年 環境庁)に掲載されている特定植物群	A : 原生林もしくはそれに近い自然林 B : 国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群 C : 比較的普通にみられるものであっても、南限・北限・隔離分布等分布限界になる産地にみられる植物群落または個体群 D : 砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの E : 郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの F : 過去において人工的に植栽されていたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの G : 乱獲、その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群 H : その他、学術上重要な植物群落	「第5回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」(平成12年 環境庁)		○
VI	「植物群落レッドデータ・ブック」(平成8年 NACS-J, WWF Japan)に掲載の植物群落	4 : 緊急に対策必要 3 : 対策必要 2 : 破壊の危惧 1 : 要注意	「植物群落レッドデータ・ブック」(平成8年 NACS-J, WWF Japan)		○
VII	「1/2.5万 植生図を基にした植生自然度について」(平成28年 環境省)に掲載の植生自然度10及び植生自然度9の植生	植生自然度10 : 自然草原(山ハイデ、風衝草原、自然草原等、自然植生のうち単層の植物社会を形成する地区) 植生自然度9 : 自然林(エゾマツトトドマツ群集、ブナ群落等、自然植生のうち低木林、高木林の植物社会を形成する地区)	「1/2.5万 植生図を基にした植生自然度について」(平成28年 環境省)		○

①重要な植物種

重要な植物種は、「(2)植物相」の既存資料で確認された種について、表 3.1.15(1)～(3)の選定基準に基づき学術上または希少性の観点から選定した。

選定した結果、表 3.1.16(1)～(5)に示すとおり、75 科 246 種が確認された。

表 3.1.16(1) 重要な植物種

No.	分類	科名	種名	選定基準			
				I	II	III	IV
1	シダ植物	ヒカゲノカズラ	スギラン			VU	CR
2			ヤチスギラン				VU
3			チシマヒカゲノカズラ			EN	CR
4		イワヒバ	イワヒバ				VU
5		ミズニラ	ヒメミズニラ			NT	VU
6			ミズニラ			NT	VU
7		トクサ	トクサ				VU
8			イヌドクサ(カワラドクサ)				VU
9		コケシノブ	ウチワゴケ				EN
10		デンジソウ	デンジソウ			VU	CR
11		サンショウモ	オオアカウキクサ			EN	EN
12			サンショウモ			VU	VU
13		イノモトソウ	リシリシノブ			NT	EN
14		チャセンシダ	クモノスシダ				VU
15		イワヤシダ	イワヤシダ				EN
16		オシダ	ミサキカグマ				EN
17			ニオイシダ				CR
18		シノブ	シノブ				VU
19		ウラボシ	ヒメノキシノブ				EN
20			カラクサシダ				VU
21			イワオモダカ				CR
22			ビロードシダ				EN
23	被子植物	ドクダミ	ハンゲショウ				EN
24	基部被子植物	ウマノスズクサ	ミチノクサイシン			VU	EN
25			コシノカンアオイ			NT	NT
26	被子植物 単子葉植物	サトイモ	ヒトツバテンナンショウ				CR
27			ナベクラザゼンソウ			VU	VU
28			チシマゼキショウ				VU
29		オモダカ	サジオモダカ				VU
30			マルバオモダカ			VU	EN
31			アギナシ			NT	NT
32			ウリカワ				EN
33		トチカガミ	スブタ			VU	CR
34			ヤナギスブタ				VU
35			クロモ				NT
36			トチカガミ			NT	EN
37			イトトリゲモ			NT	VU
38			ホッスモ				NT
39			イトイバラモ			VU	CR
40			ミズオオバコ			VU	EN
41		ヒルムシロ	イトモ			NT	NT
42			エゾヤナギモ				CR
43			エゾノヒルムシロ				EN
44			センニンモ				VU
45		シュロソウ	クルマバツクバネソウ				VU
46		ユリ	ヤマスカシユリ			NT	VU
47			ヒメサユリ(オトメユリ)			NT	VU
48		ラン	コアニチドリ			VU	EN
49			エビネ			NT	EN

表 3.1.16(2) 重要な植物種

No.	分類	科名	種名	選定基準			
				I	II	III	IV
50	被子植物 単子葉植物	ラン	キンセイラン			VU	CR
51			ナツエビネ			VU	CR
52			サルメンエビネ			VU	CR
53			ギンラン				EN
54			キンラン			VU	CR
55			ユウシュンラン			VU	EN
56			トケンラン			VU	EN
57			クマガイソウ			VU	EN
58			イチヨウラン				CR
59			サワラン(アサヒラン)				EN
60			エゾスズラン(アオスズラン)				CR
61			カキラン				NT
62			ヒロハツリシュスラン			EN	CR
63			オオミズトンボ			EN	CR
64			ミズトンボ			VU	EN
65			ムカゴソウ			EN	EX
66			ハクウンラン				CR
67			ギボウシラン			EN	CR
68			フガクスズムシソウ			VU	CR
69			セイタカスズムシソウ				CR
70			スズムシソウ				CR
71			サギソウ			NT	CR
72			ミズチドリ				VU
73			イイヌマムカゴ			EN	CR
74			ツレサギソウ				CR
75			ハシナガヤマサギソウ				EN
76			マイサギソウ				EN
77			ヤマサギソウ				EN
78			ガッサンチドリ			EN	CR
79			トキソウ			NT	VU
80			ヤマトキソウ				VU
81			ヒナチドリ			VU	CR
82			ウチョウラン			VU	CR
83			ヒメツボクロ				CR
84		アヤメ	ヒメシャガ			NT	NT
85			カキツバタ			NT	NT
86		ヒガンバナ	シロウマアサツキ			NT	VU
87		ガマ	エゾミクリ				EN
88			ミクリ			NT	NT
89			タマミクリ			NT	EN
90			ホソバタマミクリ				VU
91			ナガエミクリ			NT	NT
92			ヒメミクリ			VU	VU
93		ホシクサ	ホシクサ				CR
94		カヤツリグサ	ハクサンスゲ				EN
95			ヤマアゼスゲ				EN
96			ホソバヒカゲスゲ				VU
97			オタルスゲ(ヒメテキリスゲ)				EN
98			シラコスゲ				VU
99			オオカワズスゲ				VU
100			オニナルコスゲ				NT
101			サギスゲ				VU
102			セイタカハリイ				CR
103			エゾハリイ				CR
104			ツルアブラガヤ				NT
105			コシンジュガヤ				EN

表 3.1.16(3) 重要な植物種

No.	分類	科名	種名	選定基準			
				I	II	III	IV
106	被子植物 単子葉植物	イネ	ヒナザサ			NT	CR
107			ヒメウキガヤ				VU
108			カラフトドジョウツナギ				VU
109		ササ亜連	オゼザサ(イワテザサ)				VU
110	被子植物 真正双子葉類	ケシ	ナガミノツルケマン(ナガミノツルキケマン)			NT	NT
111			オサバグサ				VU
112		メギ	トガクシソウ(トガクシシヨウマ)			NT	VU
113			シロバナトガクシソウ(シロバナトガクシシヨウマ)			NT	VU
114		キンポウゲ	ガッサントリカブト			VU	VU
115			ワガトリカブト			VU	CR
116			エゾイチゲ				EN
117			カザグルマ			NT	CR
118			ムラサキボタンヅル				CR
119			セリバオウレン				VU
120			オオミスミソウ			NT	NT
121			オキナグサ			VU	CR
122			バイカモ				NT
123			タガラシ				VU
124		ボタン	ヤマシャクヤク			EN	EN
125		スグリ	ヤシャビシャク			NT	VU
126			コマガタケスグリ				EN
127			エゾスグリ				EN
128		ユキノシタ	シコタンソウ				EN
129		ベンケイソウ	アオノイワレンゲ				VU
130		タコノアシ	タコノアシ			NT	VU
131		アリノトウグサ	ホザキノフサモ				NT
132			タチモ			NT	VU
133		マメ	コマツナギ				VU
134			レンリソウ				CR
135			イヌハギ			VU	VU
136		ヒメハギ	ヒメノキンチャク			EN	
137		イラクサ	ヤマミズ				VU
138		バラ	キンロバイ			VU	CR
139			コキンバイ				VU
140			オオウラジロノキ				EN
141			ミツモトソウ				VU
142			ヒロハノカワラサイコ			VU	CR
143			エチゴツルキジムシロ				VU
144			タカネバラ				EN
145			サナギイチゴ			VU	VU
146		カバノキ	ハシバミ				VU
147			アサダ				VU
148		ウリ	ゴキヅル				VU
149		ニシキギ	オオツリバナ				CR
150		ヤナギ	ドロノキ(デロ)				VU
151			トカチャナギ(オオバヤナギ)				NT
152			ユビソヤナギ			VU	VU
153			エゾノキヌヤナギ				EN
154		スミレ	エイザンスミレ(エゾスミレ)				VU
155			サクラスミレ				CR
156			マルバースミレ				CR
157			ニオイタチツボスミレ				VU
158			シロスミレ(シロバナスミレ)				EN
159		オトギリソウ	トモエソウ				VU
160		フロウソウ	タカネグンナイフウロ				CR
161		ミソハギ	ミズマツバ			VU	EN

表 3. 1. 16(4) 重要な植物種

No.	分類	科名	種名	選定基準			
				I	II	III	IV
162	被子植物 真正双子葉類	ミソハギ	ミズキカシグサ			VU	CR
163			ヒメビシ			VU	CR
164		アカバナ	ヤナギラン				EN
165		ジンチョウゲ	ナニワズ				VU
166		アブラナ	ヒロハコンロンソウ				VU
167			オオユリワサビ				VU
168			ハタザオ				EN
169		オオバヤドリギ	ホザキヤドリギ				VU
170		タデ	エゾイブキトラノオ				VU
171			ヤナギヌカボ				EN
172			ボントクタデ				CR
173			ヌカボタデ			VU	EN
174			ノダイオウ			VU	VU
175		ナデシコ	シラオイハコベ(エゾフスマ)				CR
176		サクラソウ	ギンレイカ(ミヤマタゴボウ)				CR
177			ヤナギトラノオ				VU
178			ユキワリコザクラ				CR
179			ハイハマボッサ			NT	NT
180		ツツジ	イワヒゲ				EN
181			ベニバナイチヤクソウ				VU
182			アズマシヤクナゲ(シヤクナゲ)				NT
183		アカネ	フタバムグラ				VU
184		リンドウ	リンドウ				VU
185			ホソバツルリンドウ			VU	CR
186			アケボノソウ				NT
187			イヌセンブリ			VU	CR
188			テングノコヅチ			NT	VU
189		マチン	アイナエ				CR
190		キョウチクトウ	チョウジソウ			NT	VU
191			フナバラソウ			VU	CR
192			コカモメヅル				CR
193			スズサイコ			NT	VU
194		ヒルガオ	マメダオシ			CR	CR
195		ムラサキ	ムラサキ			EN	CR
196		オオバコ	ミズハコベ				VU
197			マルバノサワトウガラシ			VU	VU
198			アブノメ				CR
199			キクモ				VU
200			ヒヨクソウ				CR
201			エゾルリトラノオ				EX
202			ヤマルリトラノオ				VU
203			ミヤマクワガタ				VU
204			ミチノククワガタ				VU
205		シソ	コムラサキ				CR
206			ムシャリンドウ			VU	EX
207			メハジキ(ヤクモソウ)				CR
208			キセワタ			VU	CR
209			ヤマジソ			NT	EX
210			ミヤマタムラソウ				EN
211			デワノタツナミソウ				EN
212			テイネニガクサ			NT	EN
213			カリガネソウ				EN
214		ハマウツボ	ナンバンギセル				EX
215			オオナンバンギセル				EN
216			ハマウツボ(オカウツボ)			VU	CR
217			ミヤマシオガマ				EN

表 3.1.16(5) 重要な植物種

No.	分類	科名	種名	選定基準			
				I	II	III	IV
218	被子植物 真正双子葉類	ハマウツボ	キヨスミウツボ				CR
219			ヒキヨモギ				CR
220		タヌキモ	イヌタヌキモ			NT	NT
221			ミミカキグサ				VU
222			ホザキノミミカキグサ				VU
223			ヒメタヌキモ			VU	NT
224			ムササキミミカキグサ			NT	VU
225			タヌキモ(イヌタヌキモ×オオタヌキモ)			NT	
226		モチノキ	オクノフウリンウメモドキ				EN
227		キキョウ	キキョウ			VU	EN
228		キク	ヤマノコギリソウ				CR
229			ヒメシオン				CR
230			エゾノタウコギ				VU
231			イワインチン				VU
232			モリアザミ				CR
233			ウゼンアザミ				VU
234			アズマギク				EN
235			カワラニガナ			NT	EN
236			ムラサキニガナ(ケムラサキニガナ)				VU
237			ミヤマキタアザミ			VU	EN
238			ヒメヒゴタイ			VU	CR
239			アオヤギバナ				VU
240			キビシロタンポポ(オクウスギタンポポ)				VU
241		セリ	ホタルサイコ				VU
242			ムカゴニンジン				VU
243		ガマズミ	レンプクソウ				VU
244			ソクズ(クサニワトコ)				VU
245		スイカズラ	ナバナ				VU
246			オミナエシ				VU

②重要な植物群落

事業実施想定区域及びその周辺で確認された重要な植物群落を表 3.1.17 に示す。

表 3.1.15(2)の選定基準Ⅵに示す「植物群落レッドデータ・ブック」(平成8年 NACS-J, WWF Japan)において13件が掲載されているが、詳細な位置情報は公表されていない。また、重要な群落として、植生自然度10及び植生自然度9に該当する植生について抽出した。

事業実施想定区域及びその周辺における1/25,000植生図の統一凡例に対する植生自然度10及び植生自然度9は、表 3.1.18 及び図 3.1.13 に示す。植生自然度10及び9の植生が分布しているが、事業実施想定区域には分布していない。

表 3.1.17 重要な植物群落(選定基準Ⅵ)

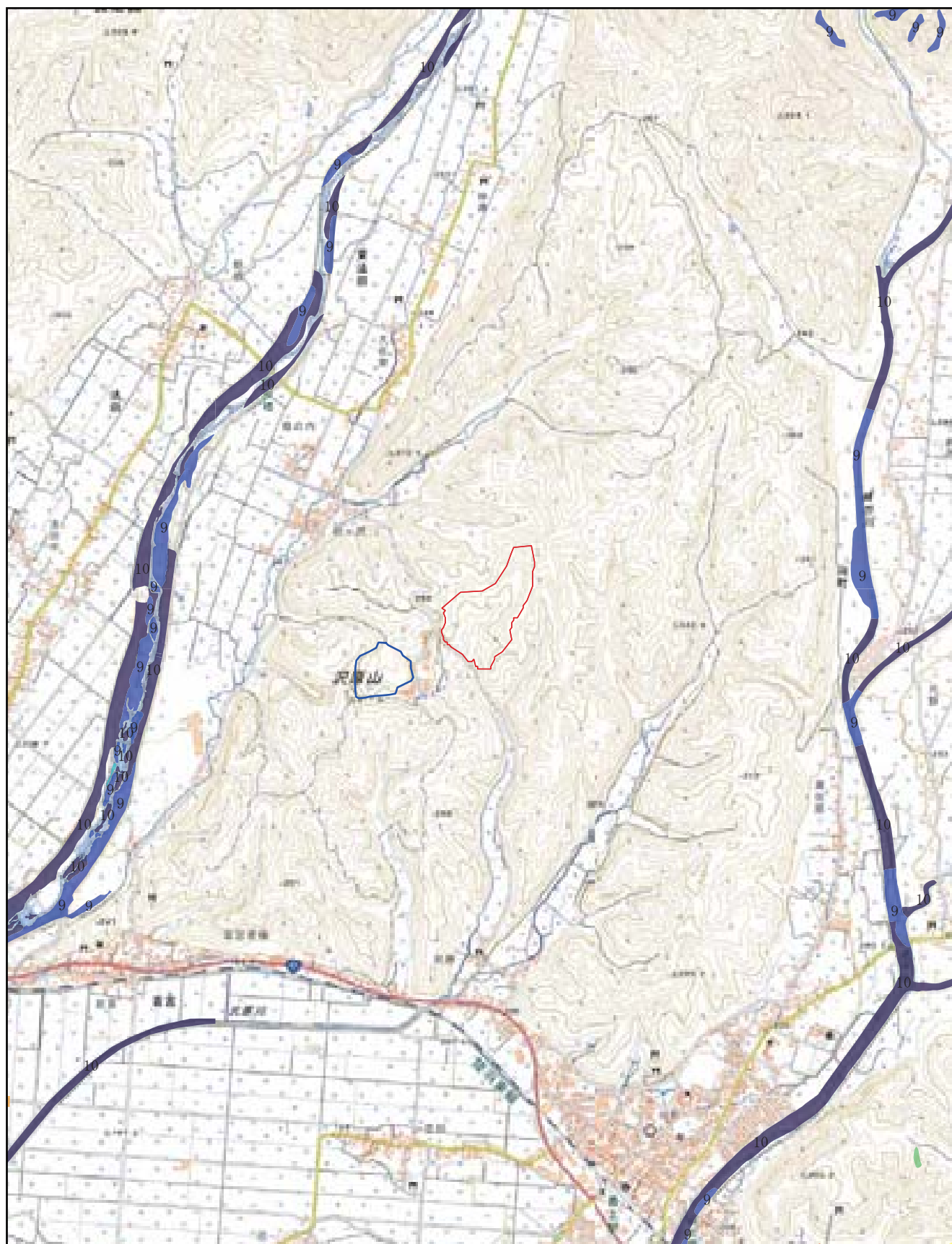
市町村	名称	カテゴリー
最上郡 最上町	クロベ群落(アカミノイヌツ・ゲクロベ群集)	2
	スギ・ブナ林(ヒメアオキ・ブナ群集、マルバマンサク・ブナ群集)	2
	ミネカエデ・ナナカマド群落(ミヤマナラ群集)	2
	ブナ群落	2
	ブナ群落(ヒメアオキ・ブナ群集、マルバマンサク・ブナ群集)	2
	ミヤマカエデ・ナナカマド群落(ミヤマナラ群集)	2
	ミヤマナラ群落(ミヤマナラ群集)	2
	禿岳の自然植物群落	2
	神室山植生垂直分布帯	2

※：選定基準及びカテゴリーは、表3.1.15に示すとおり

出典：「植物群落レッドデータ・ブック」(平成8年 NACS-J, WWF Japan)

表 3.1.18 重要な植物群落(選定基準Ⅶ)

植生自然度	1/25,000植生図 統一凡例
10	ヨシクラス、ツルヨシ群集、オギ群集
9	アカマツ群落(ⅠⅤ)、ヤナギ高木群落(ⅠⅤ)、ヤナギ低木群落(ⅠⅤ)



凡例



：事業実施想定区域



：既存処分場埋立区域

■：植生自然度 10

■：植生自然度 9

縮尺：1/25,000

0m 250m 500m 750m 1000m

出典：環境省自然環境局生物多様性センター HP 植生自然度調査 第6回、第7回
<https://www.biodic.go.jp/>

図 3.1.13 重要な植物群落位置図

(4) 巨樹・巨木林・天然記念物

事業実施想定区域及びその周辺で確認された重要な巨樹・巨木・天然記念物は、表 3.1.19～表 3.1.20 及び図 3.1.14 に示す。

「自然環境調査 Web-GIS 巨樹・巨木林調査」によると、事業実施想定区域及びその周辺において、5 件の巨樹・巨木林が分布している。また、事業実施想定区域及びその周辺において、1 件の天然記念物が分布している。

表 3.1.19 巨樹・巨木林

番号*	樹種	幹周 (cm)	樹高 (m)
1	イチョウ	410	40
2	アカマツ	770	30
3	アカマツ	310	18
4	スギ	520	22
5	マツ	360と270	30

*：表中の番号は、図3.1.14及び図3.1.19の番号と一致する。

出典：「自然環境調査Web-GIS 巨樹・巨木林調査」

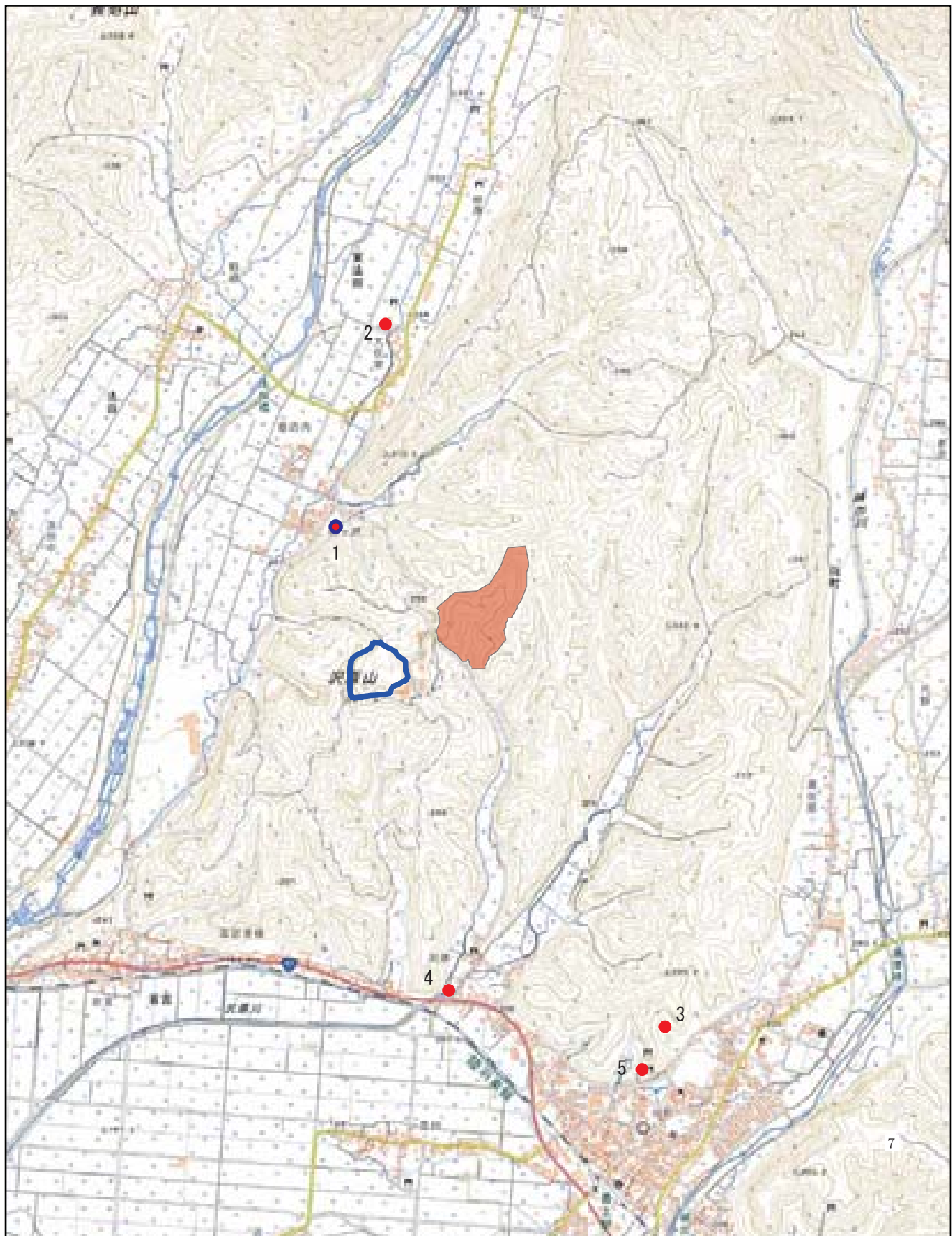
最上町の自然（2014年 最上町自然環境現況調査会編）

表 3.1.20 天然記念物(山形県・最上町指定)

名称	指定年月日	地区	備考
若松観世音の大銀杏	最上町指定文化財天然記念物 ・・・昭和43年9月17日	最上町大字法田初ヶ沢	—

出典：山形県最上町HP (<https://town.mogami.lg.jp/culture/01rekishi-shiseki/11shizen.php>)

最上町の自然（2014年 最上町自然環境現況調査会編）



凡例

-  : 事業実施想定区域
  : 既存処分場埋立区域
-  : 巨樹・巨木林
  : 天然記念物

* 図中の番号は、表 3.1.19 の番号と一致する

出典：「自然環境調査 Web-GIS 巨樹・巨木林調査」
最上町の自然（2014 年 最上町自然環境現況調査会編）

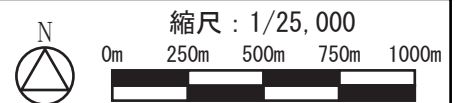


図 3.1.14 巨樹・巨木林・天然記念物の位置

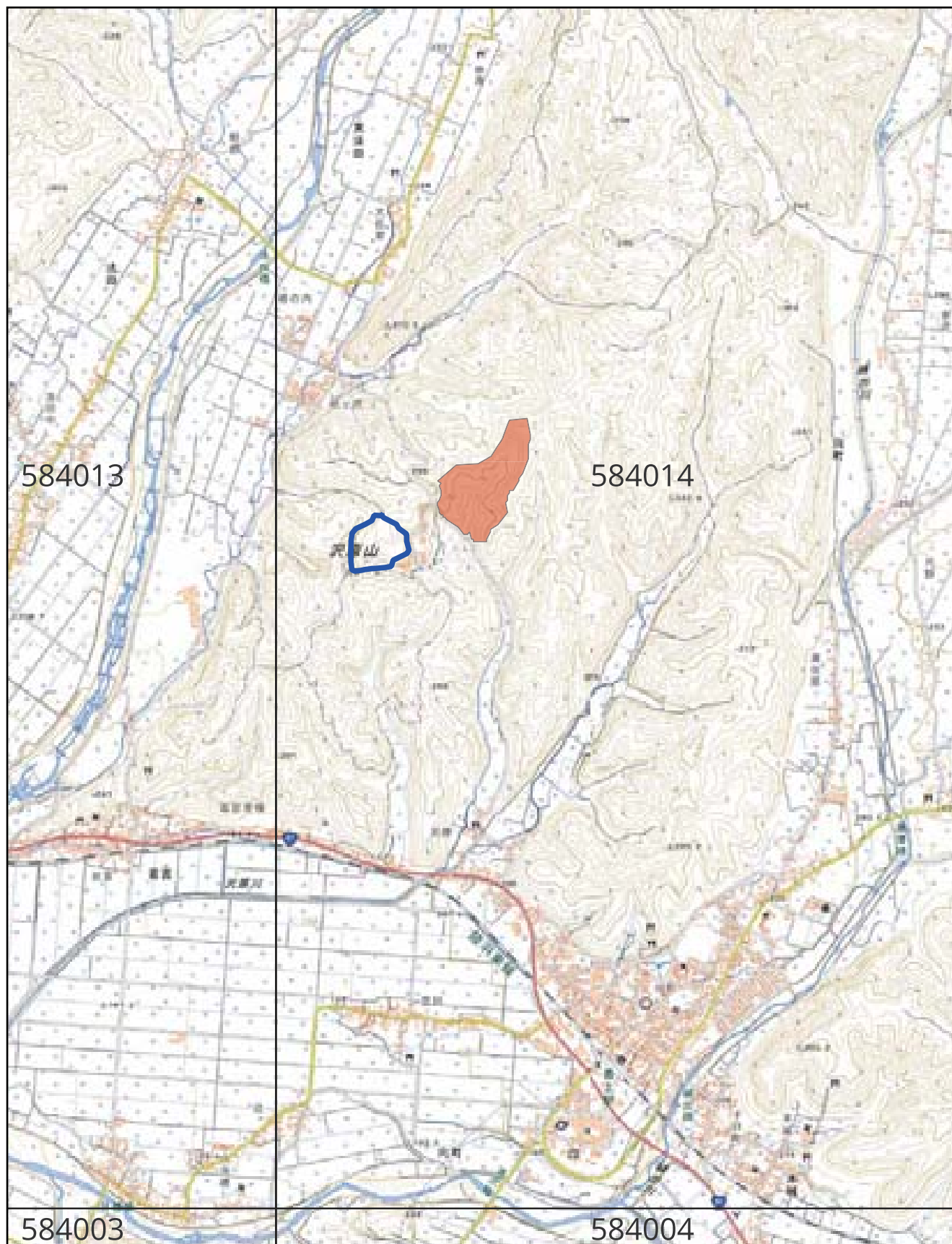
2) 動物の生息の状況

動物の生息の状況は、当該地域の自然特性を勘案し、事業実施想定区域及びその周辺を対象に文献及びその他の資料に記載された種について整理した。

事業実施想定区域及びその周辺において、種を抽出した文献及びその他の資料と調査範囲は、表 3.1.21 に示す。「自然環境保全基礎調査」については、図 3.1.15 に示す事業実施想定区域及びその周辺が含まれる 2 次メッシュを対象とした。

表 3.1.21 文献及びその他の資料と調査範囲

文献名	調査範囲
「自然環境調査Web-GIS 動物 第2回 (1978～1980)」 (令和7年6月HP閲覧)	事業実施想定区域が含まれるメッシュ
「自然環境調査Web-GIS 動物 第3回 (1983～1988)」 (令和7年6月HP閲覧)	事業実施想定区域が含まれるメッシュ
「自然環境調査Web-GIS 動物 第4回 (1988～1993)」 (令和7年6月HP閲覧)	事業実施想定区域が含まれるメッシュ
「自然環境調査Web-GIS 動物 第5回 (1993～1999)」 (令和7年6月HP閲覧)	事業実施想定区域が含まれるメッシュ
「自然環境調査Web-GIS 動物 第6回 (1999～2005)」 (令和7年6月HP閲覧)	事業実施想定区域が含まれるメッシュ
第6回自然環境保全基礎調査 種の多様性調査 鳥類繁殖分布調査報告書 (平成16年 環境省)	事業実施想定区域が含まれる 1/50,000地形図に相当する範囲
全国鳥類繁殖分布調査 (2021年10月鳥類繁殖分布調査会)	事業実施想定区域が含まれる 1/50,000地形図に相当する範囲
環境アセスメントデータベース コウモリ生息情報 (令和7年6月HP閲覧)	事業実施想定区域及びその周辺
鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き (平成23年、平成27年修正版 環境省) 環境省報道発表資料-希少猛禽類調査(イヌワシ・クマタカ)の結果について- (令和7年6月HP閲覧)	事業実施想定区域が含まれるメッシュ
レッドデータブックやまがた2019 山形県の絶滅のおそれのある野生動物 (平成31年 山形県)	最上地域
山形県自然環境現状調査報告書(動物：脊椎動物編) (平成9年 山形県) 山形県自然環境現状調査報告書(動物：無脊椎動物編) (平成9年 山形県)	事業実施想定区域が含まれるメッシュ



凡例



：事業実施想定区域



：既存処分場埋立区域



縮尺：1/25,000

0m 250m 500m 750m 1000m

出典：国土数値情報ダウンロードサイト（国土交通省）
(<https://nlftp.mlit.go.jp/>)

図 3.1.15 文献及びその他の資料による調査範囲（動物）

(1) 動物相の概要

事業実施想定区域及びその周辺の動物相の概要を表 3. 1. 22(1)～(3)に示す。確認された種は、哺乳類 23 種、鳥類 129 種、爬虫類 9 種、両生類 24 種、昆虫類 122 種、魚類 41 種、陸産貝類 7 種、底生動物 5 種の合計 360 種である(*表 3. 1. 22 と各分類の確認種数が一致しない理由は、各文献
 その他資料で重複している種があるため)。

「環境アセスメントデータベース コウモリ分布」によると、事業実施想定区域周辺の 2 次メッシュにおいて、ハイレスク種であるヤマコウモリの分布は確認されていない。また、「環境省
 報道発表資料-希少猛禽類調査(イヌワシ・クマタカ)の結果について-」及び「鳥類等に関する
 風力発電施設立地適正化のための手引き」(平成 23 年、平成 27 年修正版 環境省)によると、図
 3. 1. 16 及び図 3. 1. 17 に示すとおり、事業実施想定区域を含む 2 次メッシュにおいて、イヌワ
 シ・クマタカの生息が確認されている。

表 3. 1. 22(1) 動物相の概要

分類	文献その他資料	確認 種数
哺乳類	「自然環境調査Web-GIS 動物 第2回 (1978～1980)」 (令和7年6月HP閲覧)	6種
	「自然環境調査Web-GIS 動物 第4回 (1988～1993)」 (令和7年6月HP閲覧)	12種
	「自然環境調査Web-GIS 動物 第5回 (1993～1999)」 (令和7年6月HP閲覧)	9種
	「自然環境調査Web-GIS 動物 第6回 (1999～2005)」 (令和7年6月HP閲覧)	6種
	環境アセスメントデータベース コウモリ生息情報 (令和7年6月HP閲覧)	0種
	レッドデータブックやまがた2019 山形県の絶滅のおそれのある野生動物 (平成31年 山形県)	8種
	山形県自然環境現状調査報告書(動物：脊椎動物編) (平成9年 山形県)	0種
鳥類	「自然環境調査Web-GIS 動物 第2回 (1978～1980)」 (令和7年6月HP閲覧)	31種
	「自然環境調査Web-GIS 動物 第3回 (1983～1988)」 (令和7年6月HP閲覧)	0種
	第6回自然環境保全基礎調査 種の多様性調査 鳥類繁殖分布調査報告書 (平成16年 環境省)	57種
	全国鳥類繁殖分布調査 (2021年10月鳥類繁殖分布調査会)	77種
	鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き (平成23年、平成27年修正版 環境省)	2種
	環境省報道発表資料-希少猛禽類調査(イヌワシ・クマタカ)の結果につ いて-(令和7年6月閲覧)	
	レッドデータブックやまがた2019 山形県の絶滅のおそれのある野生動物 (平成31年 山形県)	71種
	山形県自然環境現状調査報告書(動物：脊椎動物編) (平成9年 山形県)	0種

表 3. 1. 22(2) 動物相の概要

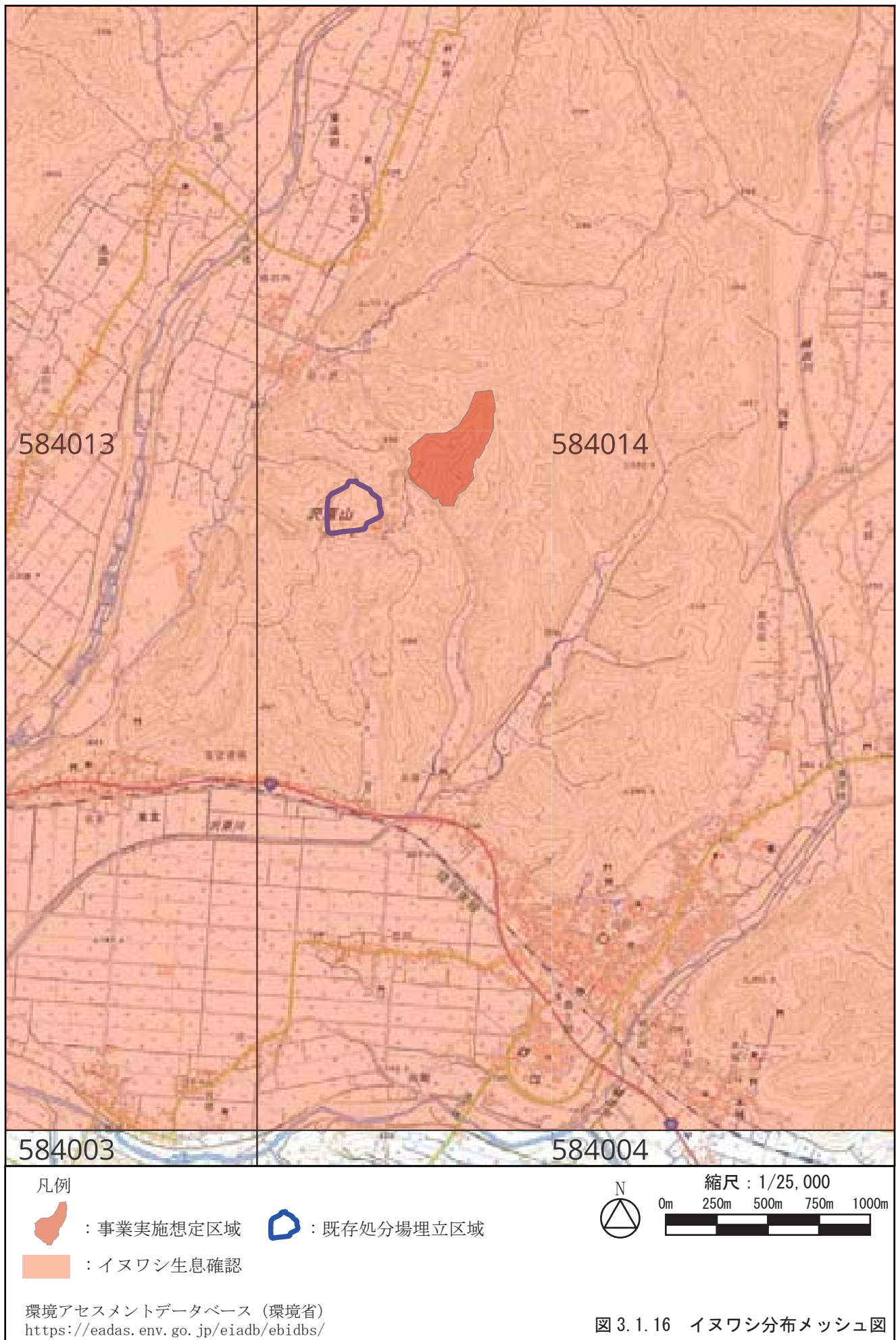
分類	文献その他資料	確認 種数
爬虫類	「自然環境調査Web-GIS 動物 第4回 (1988～1993)」 (令和7年6月HP閲覧)	2種
	「自然環境調査Web-GIS 動物 第5回 (1993～1999)」 (令和7年6月HP閲覧)	1種
	レッドデータブックやまがた2019 山形県の絶滅のおそれのある野生動物 (平成31年 山形県)	4種
	山形県自然環境現状調査報告書(動物：脊椎動物編) (平成9年 山形県)	5種
両生類	「自然環境調査Web-GIS 動物 第4回 (1988～1993)」 (令和7年6月HP閲覧)	7種
	「自然環境調査Web-GIS 動物 第5回 (1993～1999)」 (令和7年6月HP閲覧)	14種
	レッドデータブックやまがた2019 山形県の絶滅のおそれのある野生動物 (平成31年 山形県)	9種
	山形県自然環境現状調査報告書(動物：脊椎動物編) (平成9年 山形県)	6種
昆虫類	「自然環境調査Web-GIS 動物 第2回 (1978～1980)」 (令和7年6月HP閲覧)	4種
	「自然環境調査Web-GIS 動物 第4回 (1988～1993)」 (令和7年6月HP閲覧)	29種
	「自然環境調査Web-GIS 動物 第5回 (1993～1999)」 (令和7年6月HP閲覧)	22種
	レッドデータブックやまがた2019 山形県の絶滅のおそれのある野生動物 平成31年 山形県	78種
	山形県自然環境現状調査報告書(動物：無脊椎動物編) 平成9年 山形県	4種
魚類	「自然環境調査Web-GIS 動物 第4回 (1988～1993)」 (令和7年6月HP閲覧)	21種
	「自然環境調査Web-GIS 動物 第5回 (1993～1999)」 (令和7年6月HP閲覧)	9種
	レッドデータブックやまがた2019 山形県の絶滅のおそれのある野生動物 (平成31年 山形県)	20種
	山形県自然環境現状調査報告書(動物：無脊椎動物編) (平成9年 山形県)	3種
陸産貝類	「自然環境調査Web-GIS 動物 第4回 (1988～1993)」 (令和7年6月HP閲覧)	0種
	「自然環境調査Web-GIS 動物 第5回 (1993～1999)」 (令和7年6月HP閲覧)	5種
	レッドデータブックやまがた2019 山形県の絶滅のおそれのある野生動物 (平成31年 山形県)	2種
	山形県自然環境現状調査報告書(動物：無脊椎動物編) (平成9年 山形県)	0種

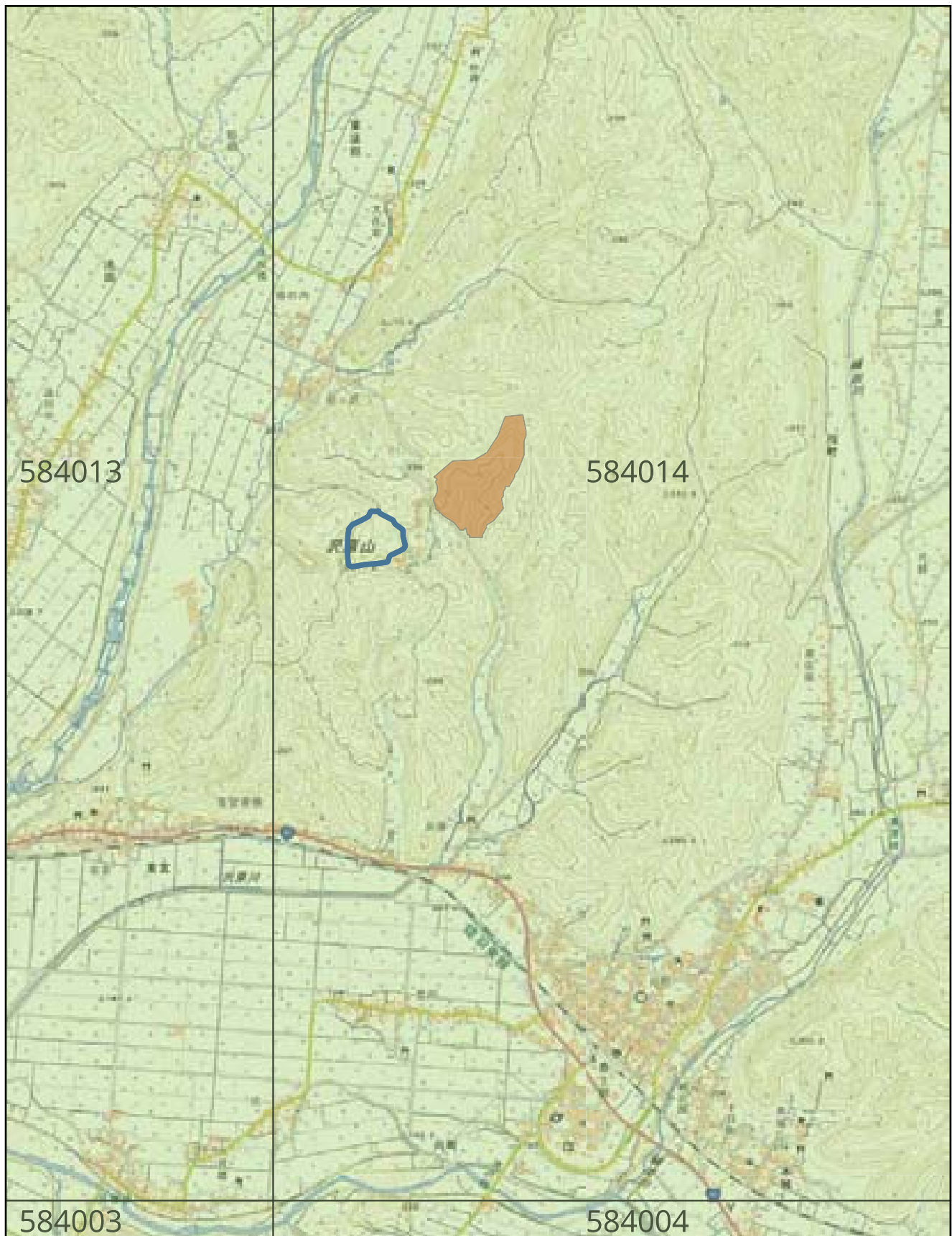
表 3. 1. 22 (3) 動物相の概要

分類	文献その他資料	確認 種数
底生動物	「自然環境調査Web-GIS 動物 第4回 (1988～1993)」 (令和7年6月HP閲覧)	0種
	「自然環境調査Web-GIS 動物 第5回 (1993～1999)」 (令和7年6月HP閲覧)	0種
	レッドデータブックやまがた2019 山形県の絶滅のおそれのある野生動物 (平成31年 山形県)	5種
	山形県自然環境現状調査報告書(動物：無脊椎動物編) (平成9年 山形県)	0種

*種名及び配列について、鳥類は「日本鳥類目録 改正第7版」(平成24年 日本鳥学会)、陸産貝類は、「日本産野生生物目録 無脊椎動物編Ⅲ」(平成10年 環境庁)、それ以外の分類については「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和5年度生物リスト」(令和5年 河川環境データベース 国土交通省)に準拠した。

*確認種は、表3. 1. 21に示す文献及びその他資料により抽出した。





凡例



：事業実施想定区域



：既存処分場埋立区域



：クマタカ生息確認



縮尺：1/25,000

0m 250m 500m 750m 1000m

環境アセスメントデータベース（環境省）
<https://eadas.env.go.jp/eiadb/ebidbs/>

図 3.1.17 クマタカ分布メッシュ

(2) 動物の重要な種

動物の重要な種は、表 3.1.23 の選定基準に基づき、学術上または希少性の観点から選定した。選定した結果、重要な種は、表 3.1.24～表 3.1.31 に示すとおり、哺乳類 10 種、鳥類 72 種、爬虫類 4 種、両生類 9 種、昆虫類 77 種、魚類 20 種、陸産貝類 2 種、底生動物 5 種の合計 199 種が確認されている。

表 3.1.23 動物の重要な種の選定基準

選定基準		カテゴリー	文献その他の資料
I	「文化財保護法」(昭和25年法律第214号)、「山形県文化財保護条例」(昭和30年山形県条例第27号)、最上町文化財保護条例(昭和51年条例第24号)	特天 国指定特別天然記念物	「国指定文化財等データベース」(令和7年6月閲覧 文化庁HP)、「文化財」(令和7年6月閲覧 山形県HP)、「歴史・自然・観光」(令和7年6月閲覧 最上町HP)
		国天 国指定天然記念物	
		県天 山形県指定天然記念物	
		最天 最上町指定天然記念物	
II	「絶滅のおそれのある野生動物の種の保存に関する法律」(平成4年法律第75号)に基づく国内希少野生動植物	国内 国内希少野生動植物種	「絶命のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行規則」(平成5年総理府令第9号)
		国際 国際希少野生動植物種	
		緊急 緊急指定種	
III	「環境省レッドリスト2020」(令和2年 環境省)の掲載種	EX: 絶滅一我が国ではすでに絶滅したと考えられる種	「環境省報道発表資料 環境省レッドリスト2020の公表について」(令和7年7月閲覧 環境省HP)
		EW: 野生絶滅一飼育・栽培下でのみ存続している種	
		CR +EN: 絶滅危惧 I 類一絶滅の危機に瀕している種(現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの)	
		CR: 絶滅危惧 I A類一ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの	
		EN: 絶滅危惧 I B類一 I A類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの	
		VU: 絶滅危惧 II 類一絶滅の危険が増大している種(現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のカテゴリーに移行することが確実と考えられるもの)	
		NT: 準絶滅危惧種一存続基盤が脆弱な種(現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種)	
		DD: 情報不足一評価するだけの情報が不足している種	
		LP: 絶滅のおそれのある地域個群一地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの	
IV	「レッドデータブック やまがた 山形県の絶滅のおそれのある野生動物 2019年改訂版」(平成30年 山形県)の掲載種	EX: 絶滅一過去に生育・生息したことが確認され、すでに絶滅したと考えられる種	「レッドデータブック やまがた 山形県の絶滅のおそれのある野生動物 2019年改訂版」(平成30年 山形県)
		EW: 野生絶滅一飼育・栽培下でのみ存続している種	
		CR +EN: 絶滅危惧 I 類一絶滅の危機に瀕している種	
		CR: 絶滅危惧 I A類一ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの	
		EN: 絶滅危惧 I B類一 I A類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの	
		VU: 絶滅危惧 II 類一絶滅の危険が増大している種	
		NT: 準絶滅危惧種一存続基盤が脆弱な種	
		DD: 情報不足一評価するだけの情報が不足している種	
		LP: 絶滅のおそれのある地域個群一地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの	

表 3. 1. 24 文献調査における重要な哺乳類

No.	目名	科名	種名	選定基準*			
				I	II	III	IV
1	トガリネズミ型目	トガリネズミ科	シントウトガリネズミ				NT
2			カワネズミ				NT
3	食肉目	イタチ科	ホンドオコジョ			NT	NT
4		クマ科	ツキノワグマ		国際		
5	齧歯目	リス科	ニホンモモンガ				NT
6			ムササビ				NT
7		ネズミ科	ヤチネズミ				NT
8		ヤマネ科	ヤマネ	国天			NT
9	翼手目	ヒナコウモリ科	ヒメホウヒゲコウモリ				DD
10	鯨偶蹄目	ウシ科	カモシカ	特天			

*選定基準は、表3. 1. 23に示す。

表 3. 1. 25 (1) 文献調査における重要な鳥類

No.	目名	科名	種名	選定基準*			
				I	II	III	IV
1	タカ目	タカ科	イヌワシ	国天	国内	EN	CR
2			ハチクマ			NT	EN
3			ハイタカ			NT	EN
4			オオタカ			NT	EN
5			サシバ			VU	EN
6			クマタカ		国内	EN	EN
7			オジロワシ	国天	国内	VU	VU
8			チュウヒ		国内	EN	VU
9			ツミ				VU
10		ミサゴ科	ミサゴ			NT	VU
11	ブッポウソウ目	ブッポウソウ科	ブッポウソウ			EN	CR
12		カワセミ科	ヤマセミ				VU
13			アカショウビン				NT
14	ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ			NT	EN
15	フクロウ目	フクロウ科	コノハズク				EN
16			フクロウ				EN
17			アオバズク				VU
18			トラフズク				VU
19			オオコノハズク				DD
20	ペリカン目	サギ科	ヨシゴイ			NT	VU
21			ササゴイ				NT
22			アマサギ				NT
23			チュウダイサギ				NT
24			チュウサギ			NT	NT

*選定基準は、表3. 1. 23に示す。

表 3. 1. 25 (2) 文献調査における重要な鳥類

No.	目名	科名	種名	選定基準*			
				I	II	III	IV
25	スズメ目	キバシリ科	キバシリ				EN
26		サンショウクイ科	サンショウクイ			VU	VU
27		カササギヒタキ科	サンコウチョウ				VU
28		カラス科	ホシガラス				VU
29		ヒバリ科	ヒバリ				VU
30		ヨシキリ科	コヨシキリ				VU
31			オオヨシキリ				NT
32		ヒタキ科	コマドリ				VU
33			トラツグミ				NT
34			アカハラ				NT
35			コルリ				NT
36			オオルリ				NT
37		イワヒバリ科	イワヒバリ				VU
38		セキレイ科	セグロセキレイ				VU
39		ホオジロ科	ホオアカ				VU
40			ノジコ			NT	NT
41		キクイタダキ科	キクイタダキ				NT
42		ムシクイ科	エゾムシクイ				NT
43			センダイムシクイ				NT
44	チドリ目	チドリ科	ケリ			DD	VU
45			コチドリ				NT
46		シギ科	オオジシギ			NT	VU
47			ホウロクシギ		国際	VU	VU
48			ツルシギ			VU	VU
49			アカアシシギ			VU	VU
50			ヤマシギ				NT
51			タカブシギ			VU	NT
52			ハマシギ			NT	NT
53			アオシギ				DD
54		セイタカシギ科	セイタカシギ			VU	NT
55		タマシギ科	タマシギ			VU	DD
56	ハヤブサ目	ハヤブサ科	ハヤブサ		国内	VU	VU
57			チゴハヤブサ				NT
58	キジ目	キジ科	ヤマドリ				NT
59			ウズラ			VU	DD
60	カモ目	カモ科	マガン	国天		NT	NT
61			オシドリ			DD	NT
62			トモエガモ	国天		VU	NT
63			ヒシクイ			VU	DD
64	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ				NT
65			ハジロカイツブリ				NT
66	ハト目	ハト科	アオバト				NT
67	ツル目	クイナ科	バン				NT
68			クイナ				DD
69	カッコウ目	カッコウ科	カッコウ				NT
70	アマツバメ目	アマツバメ科	ハリオアマツバメ				NT
71	キツツキ目	キツツキ科	アリスイ				NT
72			オオアカゲラ				NT

*選定基準は、表3. 1. 23に示す。

表 3.1.26 文献調査における重要な爬虫類

No.	目名	科名	種名	選定基準*			
				I	II	III	IV
1	有鱗目	ナミヘビ科	ヒバカリ				NT
2			シロマダラ				NT
3			ヤマカガシ				NT
4			ジムグリ				DD

*選定基準は、表3.1.23に示す。

表 3.1.27 文献調査における重要な両生類

No.	目名	科名	種名	選定基準*			
				I	II	III	IV
1	無尾目	アカガエル科	ニホンアカガエル				EN
2			ツチガエル				NT
3			トノサマガエル			NT	NT
4		アオガエル科	モリアオガエル				NT
5	有尾目	サンショウウオ科	クロサンショウウオ			NT	NT
6			トウホクサンショウウオ			NT	NT
7			キタオウショウサンショウウオ				NT
8			パンダイハコネサンショウウオ			NT	NT
9		イモリ科	アカハライモリ			NT	NT

*選定基準は、表3.1.23に示す。

表 3.1.28(1) 文献調査における重要な昆虫類

No.	目名	科名	種名	選定基準*			
				I	II	III	IV
1	トンボ目	ヤンマ科	カトリヤンマ				CR
2		サナエトンボ科	アオサナエ				EN
3			モイワサナエ				NT
4		トンボ科	マダラナニワトンボ			EN	EN
5			コノシメトンボ				EN
6			カオジロトンボ				VU
7			マイコアカネ				VU
8			ハッチョウトンボ				NT
9		イトトンボ科	セスジイトトンボ				NT
10			ルリイトトンボ				NT
11		モノサシトンボ科	アマゴイルリトンボ				NT
12		カワトンボ科	アオハダトンボ			NT	NT
13		エゾトンボ科	オオトラフトンボ				NT
14			トラフトンボ				NT
15	バッタ目	バッタ科	アカハネバッタ		国内	CR	CR
16			クルマバッタ				EN
17			イボバッタ				NT
18		マツムシ科	カヤコオロギ				VU

*選定基準は、表3.1.23に示す。

表 3. 1. 28(2) 文献調査における重要な昆虫類

No.	目名	科名	種名	選定基準*			
				I	II	III	IV
19	カメムシ目	アメンボ科	ババアメンボ			NT	CR
20			ハネナシアメンボ				NT
21		タイコウチ科	タイコウチ				VU
22			ミズカマキリ				NT
23			ヒメミズカマキリ				NT
24		ミズムシ科	ホッケミズムシ			NT	VU
25		マツモムシ科	キイロマツモムシ				NT
26		ナベブタムシ科	ナベブタムシ				NT
27	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	マルコガタノゲンゴロウ		国内	CR	CR
28			ヒメケシゲンゴロウ			VU	NT
29			キベリマメゲンゴロウ			NT	NT
30			シマゲンゴロウ			NT	NT
31			クロゲンゴロウ			NT	NT
32			ゲンゴロウ			VU	NT
33		ミズスマシ科	コミズスマシ			EN	EN
34			コオナガミズスマシ			VU	NT
35			オナガミズスマシ				NT
36		ハンミョウ科	ホソハンミョウ			VU	VU
37		ハムシ科	キンイロネクイハムシ			NT	VU
38			オオルリハムシ			NT	VU
39			イネネクイハムシ				NT
40		オサムシ科	ヒメクロオサムシ				NT
41			アカガネオサムシ			VU	NT
42			セアカオサムシ			NT	NT
43			サクライクロナガゴミムシ				NT
44		コガシラミズムシ科	クロホシコガシラミズムシ			VU	NT
45			キイロコガシラミズムシ			VU	NT
46		ガムシ科	スジヒラタガムシ			NT	NT
47			ガムシ			NT	NT
48		クワガタムシ科	ネブトクワガタ				NT
49		コガネムシ科	オオチャイロハナムグリ			NT	NT
50			アカマダラコガネ(アカマダラハナムグリ)			DD	NT
51		カミキリムシ科	トラフカミキリ				NT
52			ヨツボシシロオビゴマフカミキリ				NT
53			コトラカミキリ			NT	NT
54			ルリカミキリ				NT

*選定基準は、表3. 1. 23に示す。

表 3. 1. 28(3) 文献調査における重要な昆虫類

No.	目名	科名	種名	選定基準*			
				I	II	III	IV
55	チョウ目	セセリチョウ科	チャマダラセセリ			EN	CR
56			ギンイチモンジセセリ			NT	EN
57			ミヤマチャバネセセリ				NT
58			スジグロチャバネセセリ			NT	NT
59		タテハチョウ科	キマダラモドキ			NT	CR
60			サトキマダラヒカゲ				VU
61			ウラギンスジヒョウモン			VU	NT
62			オオムラサキ			NT	NT
63			ベニヒカゲ			NT	NT
64		シロチョウ科	ヒメシロチョウ			EN	VU
65			スジボソヤマキチョウ				VU
66		アゲハチョウ科	ヒメギフチョウ			NT	NT
67			大石田のギフチョウ			VU	LP
68		シジミチョウ科	チョウセンアカシジミ	県天		VU	NT
69			ミヤマカラスシジミ				NT
70			クロシジミ			EN	NT
71			オオゴマシジミ			NT	NT
72			飛島のウラジロミドリシジミ				LP
73		ジャクガ科	イチゴナミジャク				DD
74	ハチ目	ミツバチ科	クロマルハナバチ			NT	NT
75		アリ科	トゲアリ			VU	NT
76			エゾアカヤマアリ			VU	NT
77		スズメバチ科	モンズズメバチ			DD	DD

*選定基準は、表3. 1. 23に示す。

表 3.1.29 文献調査における重要な魚類

No.	目名	科名	種名	選定基準*			
				I	II	III	IV
1	コイ目	コイ科	シナイモツゴ日本海型(シナイモツゴ)			CR	CR
2			ウケクチウグイ			EN	EN
3			ヤリタナゴ			NT	EN
4			ジュウサンウグイ(マルタ)			LP	VU
5			カマツカC型(カマツカ)				VU
6			キタノアカヒレタビラ(アカヒレタビラ)			EN	VU
7			エゾウグイ東北型(エゾウグイ)			LP	VU
8			テツギョ				LP
9		ドジョウ科	ホトケドジョウ山形型(ホトケドジョウ)			EN	EN
10			ヒガシシマドジョウ(シマドジョウ)				NT
11			キタドジョウ(ドジョウ)			DD	DD
12	ナマズ目	ギギ科	ギバチ			VU	CR
13		アカザ科	アカザ日本海型(アカザ)			VU	EN
14	スズキ目	カジカ科	ハナカジカ山形型			LP	CR
15			カマキリ(アユカケ)			VU	EN
16	トゲウオ目	トゲウオ科	トミヨ属淡水型(イバラトミヨ)			LP	EN
17	ヤツメウナギ目	ヤツメウナギ科	スナヤツメ南方種(スナヤツメ)			VU	VU
18			カワヤツメ			VU	VU
19	ダツ目	メダカ科	キタノメダカ(メダカ)			VU	VU
20	ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ(ウナギ)			VU	DD

*選定基準は、表3.1.23に示す。

表 3.1.30 文献調査における重要な陸産貝類

No.	目名	科名	種名	選定基準*			
				I	II	III	IV
1	柄眼目	クチミゾガイ科	マツシマクチミゾガイ			VU	VU
2	真有肺目	キセルガイ科	クニノギセル			NT	NT

*選定基準は、表3.1.23に示す。

表 3.1.31 文献調査における重要な底生動物

No.	目名	科名	種名	選定基準*			
				I	II	III	IV
1	水棲目	ヒラマキガイ科	ヒメヒラマキミズマイマイ			EN	VU
2	原始紐舌類	タニシ上科タニシ科	マルタニシ			VU	NT
3			オオタニシ			NT	NT
4	不完全歯上目	ドブシジミ上科マメシジミ科	ニホンマメシジミ				DD
5			ドブシジミ				DD

*選定基準は、表3.1.23に示す。

(3) 動物の注目すべき生息地

事業実施想定区域及びその周辺には、動物の注目すべき生息地はない。

3) 生態系の状況

(1) 自然環境の類型化

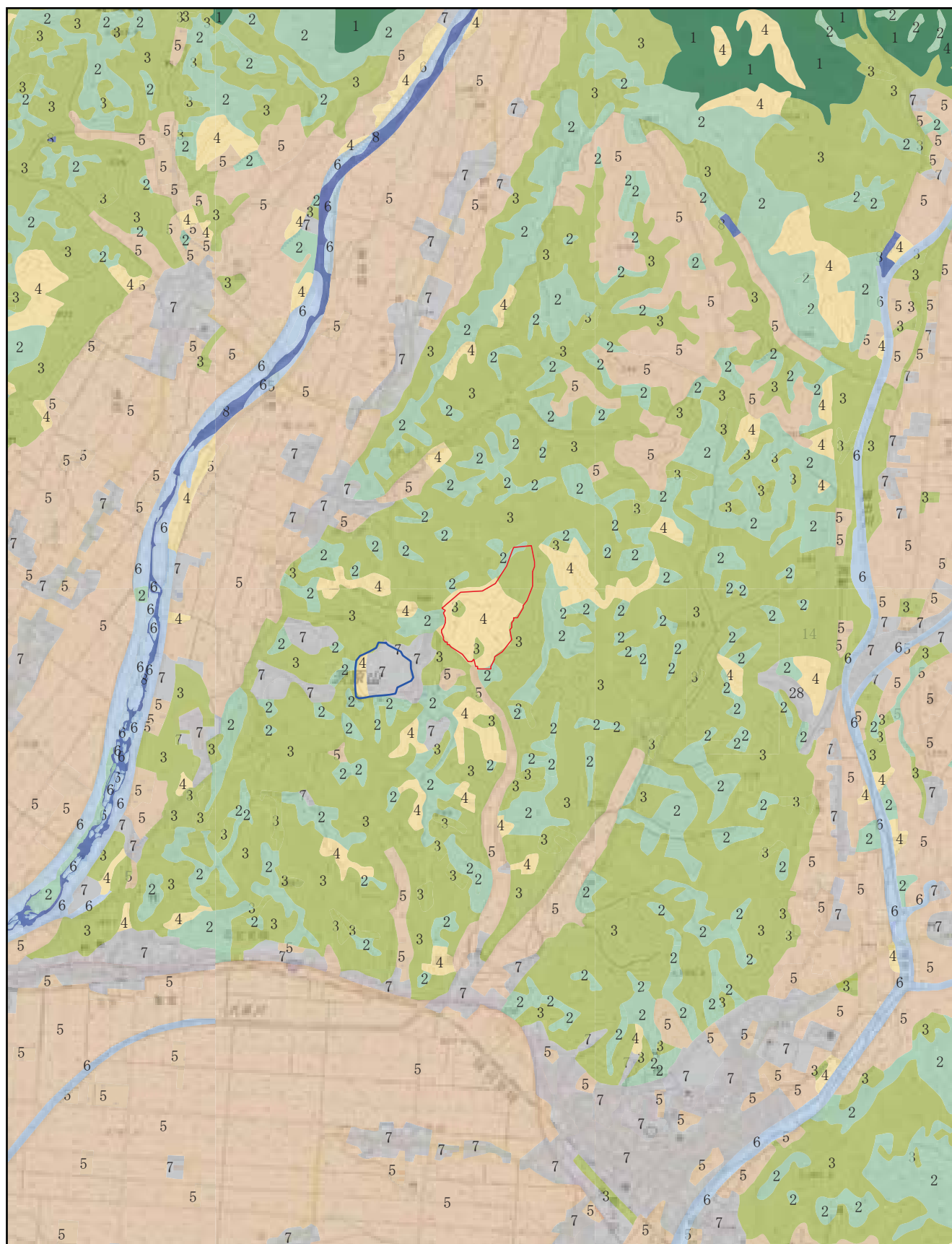
事業実施想定区域及びその周辺の自然環境類型区分の概要は、表 3.1.32 及び図 3.1.18 に示す。

事業実施想定区域及びその周辺は、地形、植生区分と対応関係より自然林、二次林、植林地、草原・低木林、耕作地等、河辺等、市街地等、河川等の 8 つの自然環境類型区分に分類される。事業実施想定区域の自然環境類型区分は、植林地、草原・低木林及び二次林が分布している。

表 3.1.32 自然環境類型区分

No.	区分	植物群落
1	自然林	オオバクロモジミズナラ群集
2	二次林	アカマツ群落（I V）、オクチョウジザクラコナラ群集、 オニグルミ群落（V）、アカマツ群落（V）
3	植林地	スギ・ヒノキ・サワラ植林、アカマツ植林、カラマツ植林
4	草原・低木林	タニウツギノリウツギ群落、ススキ群団（V）、伐採跡地群落（V）
5	耕作地等	ゴルフ場・芝地、牧草地、放棄畑雑草群落、果樹園、畑雑草群落、 水田雑草群落、放棄水田雑草群落
6	河辺等	ヤナギ高木群落（I V）、ヤナギ低木群落（I V）、ヨシクラス、 ツルヨシ群集、オギ群集
7	市街地等	路傍・空地雑草群落、市街地、緑の多い住宅地、 残存・植栽樹群をもった公園・墓地等、造成地
8	河川等	開放水域

*植物群落は、現存植生図凡例(表3.1.13)による。



凡例

：事業実施想定区域 既存処分場埋立区域

1 自然林 2 二次林 3 植林地 4 草原・低木林
5 耕作地等 6 河辺等 7 市街地等 8 河川等

縮尺：1/25,000

0m 250m 500m 750m 1000m

出典：環境省自然環境局生物多様性センター HP 植生自然度調査 第6回、第7回
<https://www.biodic.go.jp/>

図 3.1.18 自然環境類型区分図

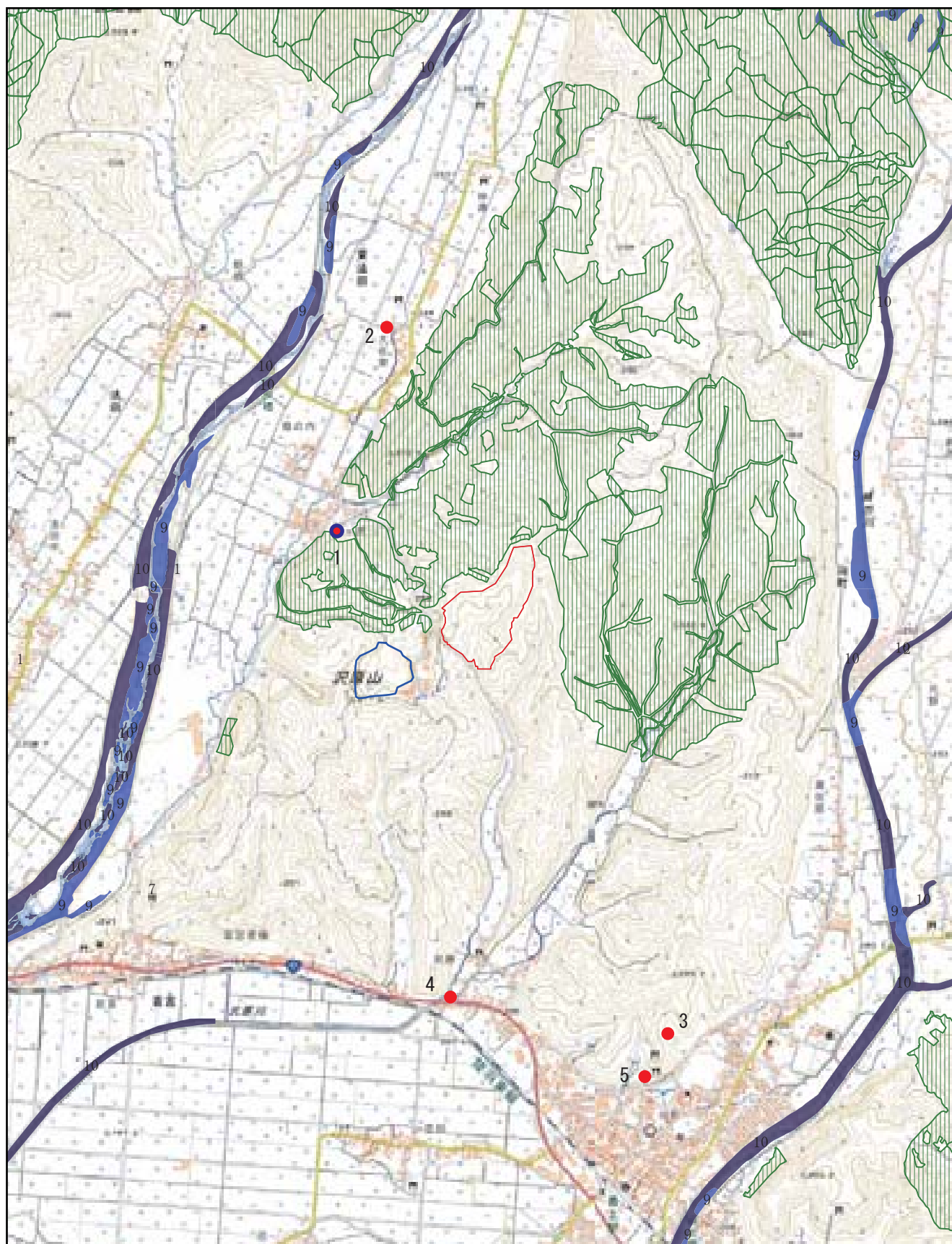
(2) 重要な自然環境のまとまりの場

事業実施想定区域及びその周辺の重要な自然環境のまとまり場は、表 3.1.33 及び図 3.1.19 に示すとおりである。

表 3.1.33 重要な自然環境のまとまりの場

重要な自然環境のまとまりの場		抽出理由
自然植生	自然植生度10	環境省植生図におけるヨシクラス、ツルヨシ群集、オギ群集に該当する植生である。
	自然植生度9	環境省植生図におけるアカマツ群落（Ⅳ）、ヤナギ高木群落（Ⅳ）、ヤナギ低木群落（Ⅳ）に該当する植生である。
保安林		水源涵養林や土砂崩壊防止機能を有する緑地等、地域において重要な機能を有する自然環境である。
巨樹・巨木林	表3.1.19のとおり	自然環境保全基礎調査において定められた原則幹回りが3m以上の巨樹及び巨木群である。
天然記念物	表3.1.20のとおり	学術上価値の高い動物(生息地、繁殖地及び渡来地を含む)、植物(自生地を含む)が指定されている。

出典：「自然環境調査Web-GIS 巨樹・巨木林調査」



凡例



: 事業実施想定区域



: 既存処分場埋立区域



: 巨樹・巨木林

■ : 植生自然度 10

▨ : 保安林



: 天然記念物

■ : 植生自然度 9

* 図中の番号は、表 3.1.19 の番号と一致する

出典: 「自然環境調査 Web-GIS 巨樹・巨木林調査」

最上町の自然 (2014 年 最上町自然環境現況調査会編)

山形県農林水産部森林ノミクス推進課 資料



縮尺: 1/25,000

0m 250m 500m 750m 1000m

図 3.1.19 重要な自然環境のまとまりの場位置図

3.1.7 景観及び人と自然との触れ合い活動の状況

1) 景観資源

事業実施想定区域から最も近隣にある景観資源が「瀬見溪谷」であるが、事業実施想定区域から西へ約 8km 離れていることから、事業実施想定区域近隣には、景観資源がない。

2) 眺望景観

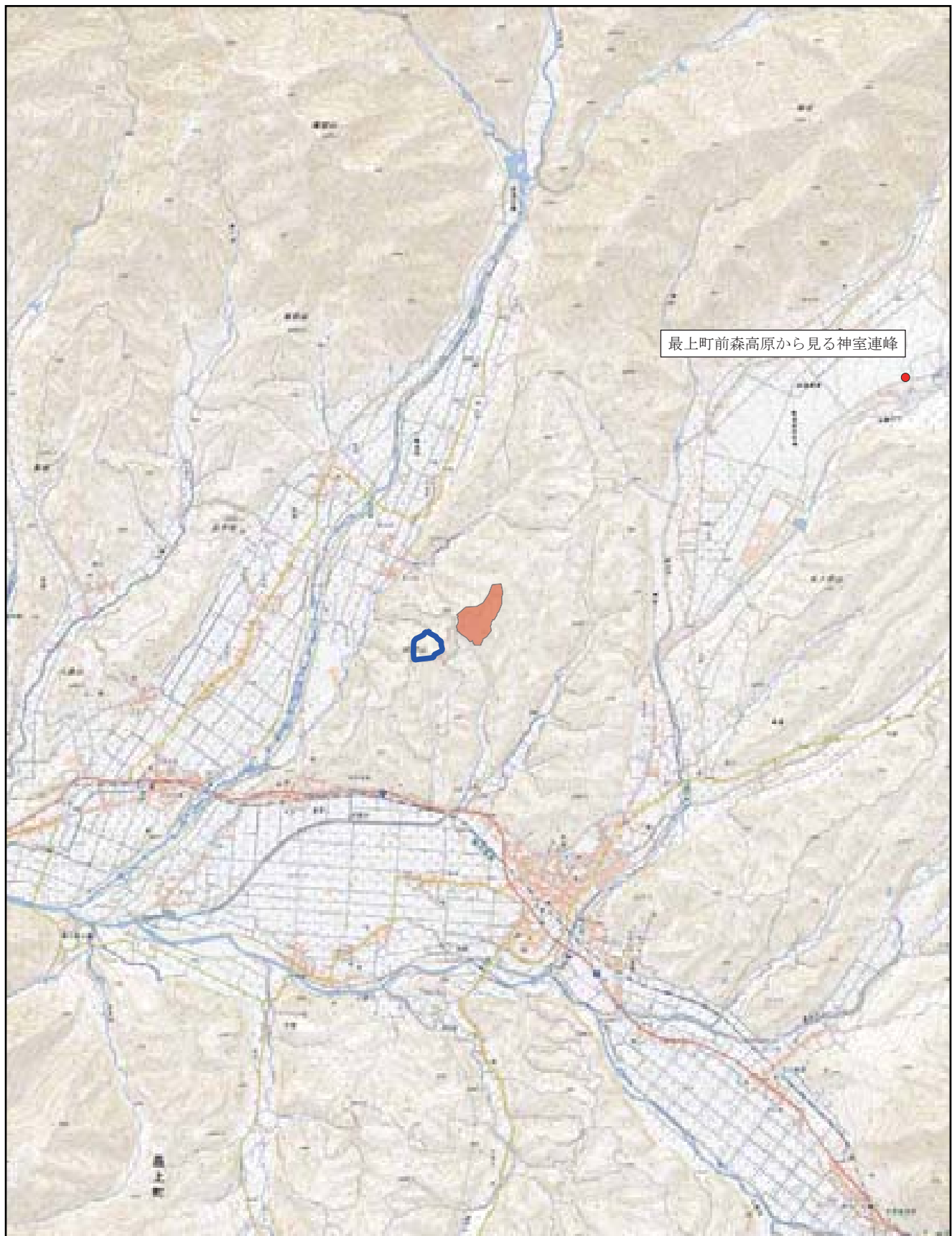
事業実施想定区域周辺にある、「最上町前森高原から見る神室連峰」の概要を表 3.1.34 に示す。また、その位置を図 3.1.20 に示す。

表 3.1.34 主要な眺望点の状況

番号	名称	概要
1	最上町前森高原から見る 神室連峰	遮る物のない草原から雄大な神室連峰を見ることができ、雲の流れる様子や草原を渡る風の音が大自然のすばらしさを再確認させてくれる。春から秋にかけては、山々と大草原、その中を走る馬の姿をみることができる。

出典：「やまがた景観物語」(<https://keikan.pref.yamagata.jp/>)

「やまがたへの旅 山形県公式観光サイト」(<https://yamagatakanko.com/>)



【凡例】

-  : 事業実施想定区域
  : 既存処分場埋立区域
 : 眺望点（最上町前森高原から見る神室連峰）



縮尺：1/50,000
 0m 500m 1000m 1500m 2000m

出典：やまがた景観物語 (<https://keikan.pref.yamagata.jp/>) 図 3.1.20 事業実施想定区域周辺の主要な眺望点図

3) 野外レクリエーションの場

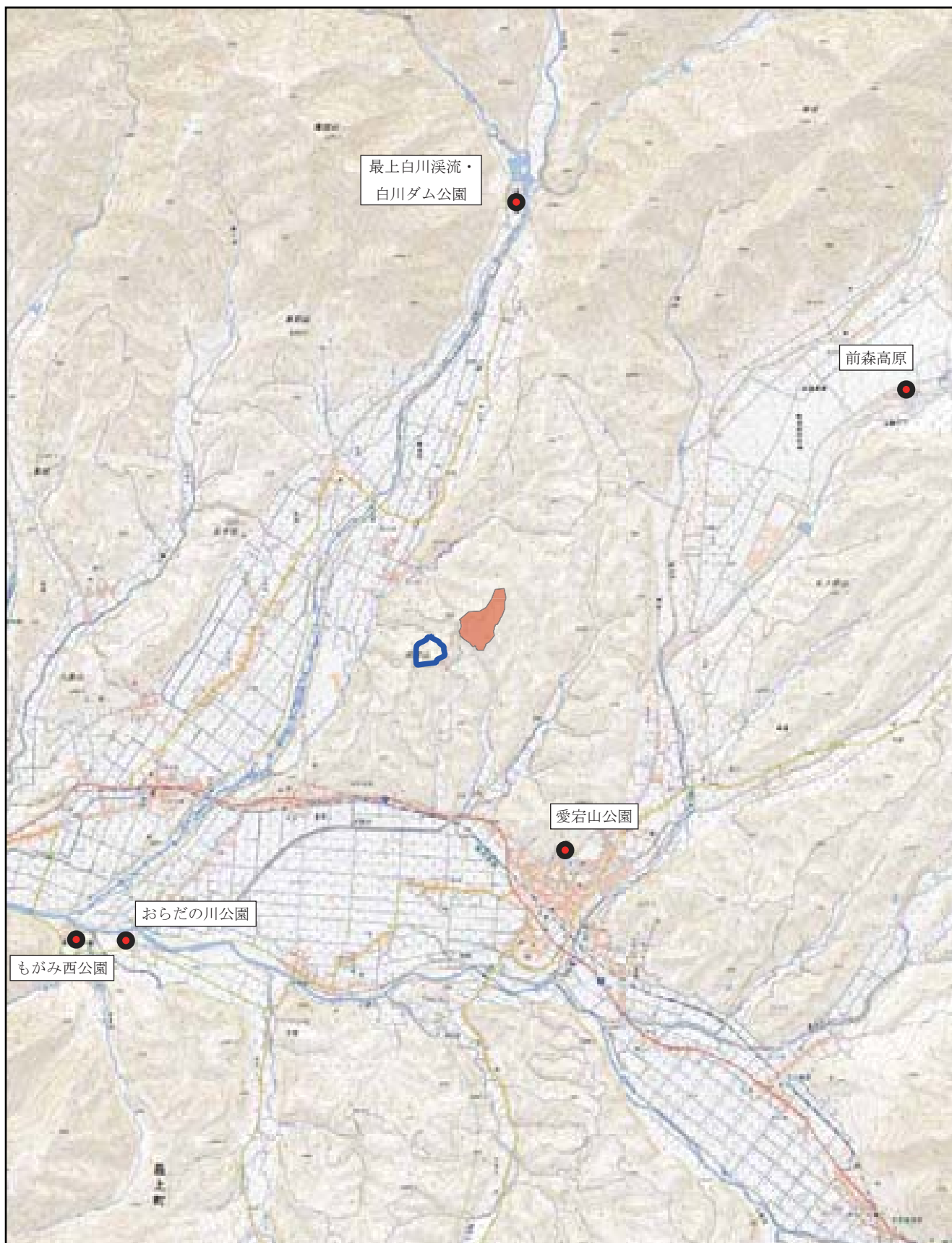
事業実施想定区域周辺には、野外レクリエーションの場として「前森高原」、「最上白川溪流・白川ダム公園」、「愛宕山公園」、「おらだの川公園」、「もがみ西公園」がある。各レクリエーションの場の概要を表 3. 1. 35 に示す。また、各レクリエーションの場の位置を図 3. 1. 21 に示す。

表 3. 1. 35 事業実施想定区域周辺の主要な屋外レクリエーションの場

番号	名称	概要
1	前森高原	200haの広大な敷地が広がる前森高原。動物との触れ合い体験や乗馬体験施設、オートキャンプ場等が整備されている。
2	最上白川溪流・白川ダム公園	四季折々の景観を楽しむことができる白川ダムは、白川の上流にあり、全長273.0m高さ12.0mと最上町では最大。また、ダムに注ぐ溪流も白川溪流として有名であり、林道も整備されている。下流には最上白川溪流公園があり、キャンプ場が併設されている。
3	愛宕山公園	200本のソメイヨシノや山桜が咲き誇り、桜まつり期間中、ライトアップを実施している。その他、ツツジ、ハギ、アジサイなどの各種の植物が、各時期にそれぞれ花を咲かせる。
4	おらだの川公園	清流最上小国川の近くにあるため、釣りや川遊びなどができるスポット
5	もがみ西公園	町民のレクリエーションの場とし、各種体育施設が整備されている。

出典：「やまがた景観物語」(<https://keikan.pref.yamagata.jp/>)

「やまがたへの旅 山形県公式観光サイト」(<https://yamagatakanko.com/>)



【凡例】

-  : 事業実施想定区域
  : 既存処分場埋立区域
 : レクリエーションの場



縮尺：1/50,000
 0m 500m 1000m 1500m 2000m

出典：やまがた景観物語 (<https://keikan.pref.yamagata.jp/>)
 やまがたへの旅 山形県公式観光サイト (<https://yamagatakanko.com/>)

図 3.1.21 事業実施想定区域周辺の
 主要なレクリエーションの場位置図